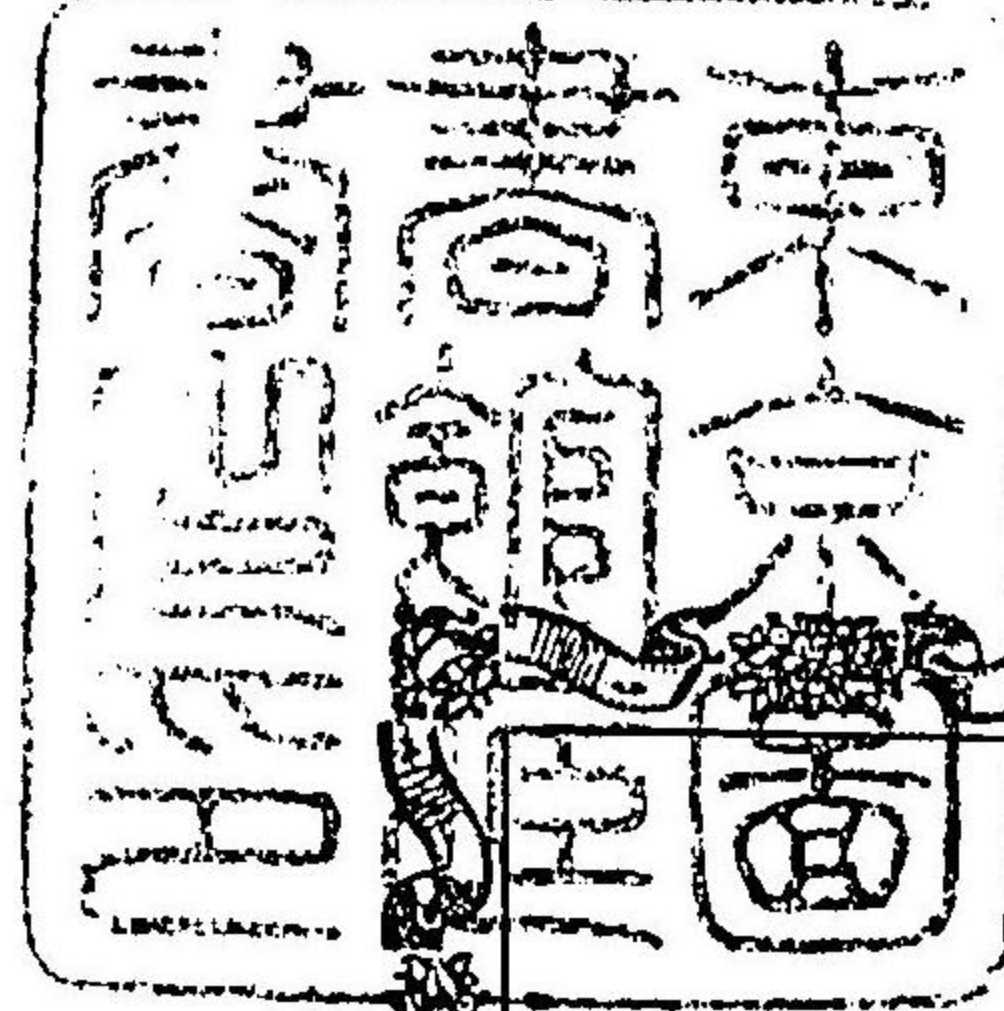


47+A-33



明治十四年五月

鹿兒島縣規則便覽

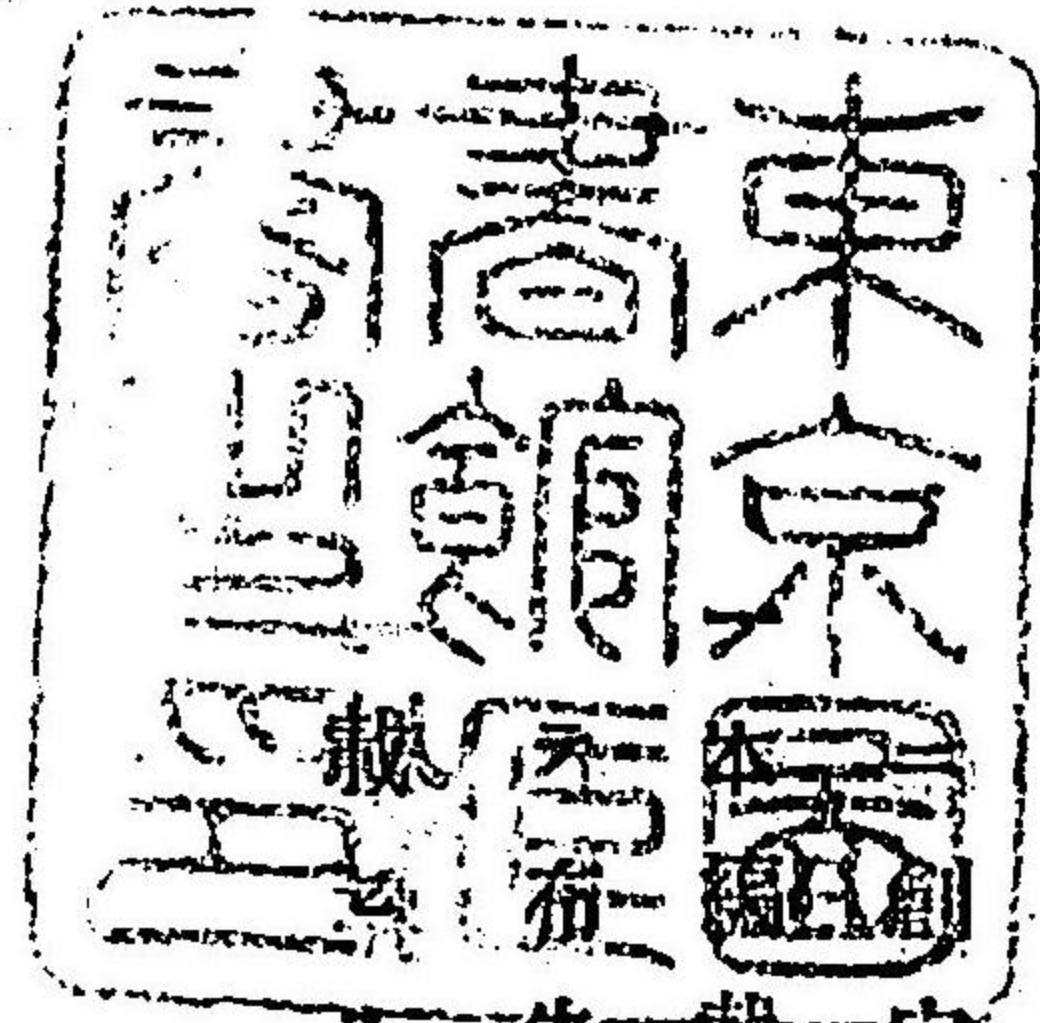
鹿兒島縣編輯



CZ
1113
128-04

凡例

- 一本編分ツテ二卷トス第一卷ハ郡町村事務トシ該務ニ必要ナル法令ヲ蒐ム第二卷ハ鹿兒島縣諸規則トナシ管内人民一般ニ遵守スヘキ制令ヲ集ムルモノナリ
- 一編纂ハ卷中章ヲ分ツ第一卷ヲ二章トシ其一ヲ郡務其一ヲ町村務トナス第二卷ハ八章ニ分チ廳内各課ノ順序ニヨリ其主務ヲ別テ章トナシ以テ搜索ニ便ナラシム
- 一本編ハ明治十年岩村縣令赴任以降本年三月ニ至ルノ間



定頒布セルモノヲ纂ム
 載スル處ノ成規ハ皆本縣限制施行スル法則ニシ
 告及ヒ官省ノ布達等一般ニ關係スルモノハ之レヲ

一 本年四月以降頒布施行スル成規ハ追テ編纂スヘシ尙ホ
本編々纂期內ニ制定スル規則現行シモシ若シ本編ニ脱
漏スルアレハ拾遺トナシ他日蒐集印行スヘシ
明治十四年五月

編者誌

第壹卷 郡町村成規

○第壹章 郡務

郡長委任條件	一丁
郡役所規則	十一丁
郡長專行事件届出方	十六丁
郡長以下月給旅費定則	十七丁
郡長事務處分方心得	三十四丁
郡役所金錢出納順序	三十七丁
地方税領收順序並取扱心得	五十四丁
地方税上納規則	百九丁
諸税上納手續	百廿四丁
河港道路橋梁修築假規則	百廿六丁

戶籍調査規程	百三十五丁
縣會議員撰學手續	百五十丁
地所變換取扱手續	百五十四丁
公債利賦金拂渡取扱手續	百九十四丁

○第二章 町村事務

戶長職務條例	三百一丁
戶長職務取扱心得	二百六丁

第一章 郡務

○郡長委任條件

明治十四年二月廿五日
甲第三十五號達

○政府ノ制定ニ係ル條件

- 第一 徵稅並地方稅徵收及ヒ不納者處分ノ事
- 第二 徵兵取調ノ事
- 第三 身代限財產取扱ノ事
- 第四 逃亡死亡絕家ノ財產處分ノ事
- 第五 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事
- 第六 電線道路田畑水利ニ障得アル官有樹木ヲ伐採スル事
- 第七 河岸地借地檢査ノ事
- 第八 職遊獵願威銃願ノ事
- 第九 印紙罫紙賣捌願ノ事

第十 小學校學資金ノ事

○特ニ委任ノ條件大島郡長ヲ除ク

- 第一 士族ノ民籍編入願ノ事
- 第二 脱籍ノ者處分ノ事
- 第三 改姓名願ノ事
- 第四 改葬願ノ事
- 第五 宿村遷送人及例死變死行旅病死人處分ノ事
- 第六 郡書記以下及戸長ノ歸省墓參又ハ他方出療願ノ事
- 第七 郡書記以下除服出仕ヲ達スル事
- 第八 縣社以下祭典及寺院法會ノ事
- 第九 説教願届ノ事
- 第十 疫獸處分ノ事

第十一 變換地檢査ノ事

- 第十二 官有地ニアル民有ノ建物書入質賣買等ノ節與印スル事

第十三 並木植繼及新規植立ノ事

- 第十四 定額内備進退ノ事
- 第十五 定規アル諸經費ヲ出納スル事
- 第十六 郡書記以下ヲ本縣管内ニ派出セシムル事
- 第十七 郡長不參ノ節書記ヲシテ代理セシムル事
- 第十八 委任條件ニ付諸裁判所ヘ文書住復ノ事
- 第十九 師範學校卒業証書又ハ本縣ノ學力証明狀ヲ有スル公立學校教員ヲ監督シ其進退ヲ具申スル事
- 第二十 師範學校卒業証書又ハ本縣ノ學力証明狀ヲ有セ

- 公立學校教員ヲ進退スル事
- 第廿一 公立學校役員ヲ進退スル事
- 第廿二 日本形大小船取扱ノ事
- 第廿三 雜種税ニ係ル諸營業及興行願ノ事
但漁業願ハ此限ニ非ラス
- 第廿四 士民ノ廢嫡ニ屬スル家督相續養子願ノ事
- 第廿五 家名ヲ廢シ他家相續養子等ノ願ヲ處分スル事
- 第廿六 處刑濟宣告書寫ヲ受理シ懲役五年以上犯由牌掲示等ノ事
- 第廿七 養子戸主離縁願ノ事
- 第廿八 五拾歳未滿ノ士族隱居願ノ事
- 第廿九 他家ノ女子ヲ以相續願ノ事

- 第三十 社寺建物新築修繕又ハ取毀願ノ事
但式内并國史現在ノ神社ハ此限ニ非ラス
- 第三十一 社寺境内官有地ノ枯木倒木ヲ處分スル事
- 第三十二 士族死亡跡相續及除族跡襲族延期願ノ事
- 第三十三 除族者復籍願ノ事
- 第三十四 病院學校等へ金穀物品寄附ノ事
○大島郡長へ委任ノ條件
- 第一 士族ノ民籍編入願ノ事
- 第二 脱籍ノ者處分ノ事
- 第三 人民改姓名願ノ事
- 第四 改葬願ノ事
- 第五 宿村遷送人及倒死變死行旅病死人處分ノ事

- 第六 郡書記以下歸省願及郡書記以下戸長ノ墓参又ハ他
方出療願ノ事
- 第七 郡書記以下ノ除服出仕ヲ達スル事
- 第八 縣社以下祭典及寺院法會ノ事
- 第九 說教願届ノ事
- 第十 諸興行願ノ事
- 第十一 疫獸處分ノ事
- 第十二 變換地檢査ノ事
- 第十三 官有地ニアル民有ノ建物書入質賣買等ノ節與印
スル事
- 第十四 並木植繼及新規植立ノ事
- 第十五 定額内雇進退ノ事
- 第十六 定規アル諸經費ヲ出納スル事
- 第十七 郡書記以下ヲ本縣管内へ派出セシムル事
- 第十八 郡長不在ノ節書記ヲシテ代理セシムル事
- 第十九 委任條件ニ付諸裁判所へ文書往復ノ事
- 第二十 師範學校卒業証書又ハ本縣ノ學力証明狀ヲ有ス
ル公立學校教員ヲ監督シ其進退ヲ具申スル事
- 第二十一 師範學校卒業証書又ハ本縣ノ學力証明狀ヲ有セ
サル公立學校教員ヲ進退スル事
- 第二十二 公立學校役員ヲ進退スル事
- 第二十三 戸長ヲ進退スル事
- 第二十四 棄兒届并棄兒貰受願ノ事
- 第二十五 内外國船ノ困難ニ罹ルモノヲ處分スル事

- 第廿六 難破船處分ノ事
- 第廿七 日本形大小船及諸車取扱ノ事
- 第廿八 酒類釀造營業願ノ事
- 第廿九 免許ノ賣藥受賣及行商願ノ事
- 第三十 橋錢及渡船場賃錢收入願ノ事
- 第三十一 牛馬賣買營業願ノ事
- 第三十二 度量衡賣捌願ノ事
- 第三十三 煙草賣買營業願ノ事
- 第三十四 租稅收入ニ付成規アル延期願ヲ許可スル事
- 第三十五 官費ニ關セサル溜井修繕及用惡水路疏通并新規架橋願ノ事
- 但土地ノ變換及租稅ノ増減ニ關スルモノハ此限ニア

ラス

- 第三十六 開市願ノ事
- 第三十七 雜種稅ヲ課スヘキ諸營業願ノ事
- 第三十八 病院學校等へ金穀物品寄附願ノ事
- 第三十九 官有地ニ生スル櫨實桑茶葉及葺笥竹皮ノ類賣却ノ事
- 第四十 非常備米處分ノ事
- 但買入及賣却ハ此限ニ非ラス
- 第四十一 公私人馬繼立願ノ事
- 第四十二 人馬繼立賃金ヲ査定スル事
- 第四十三 海上衝突豫防規則ニ關スル事
- 第四十四 舷燈販賣願ノ事

- 第四十五 士民ノ廢嫡ニ屬スル家督相續養子願ノ事
- 第四十六 家名ヲ廢シ他家相續養子等ノ願ヲ處分スル事
- 第四十七 死亡届取纏ノ事
- 第四十八 流行病アル節政府ノ達布告ニ據リ處分スル事
- 第四十九 藥舖并産婆營業願ノ事
- 第五十 種痘醫願ノ事
- 第五十一 祠官祠掌進退ノ事
- 第五十二 處刑濟宣告書寫ヲ受理シ懲役五年以上犯由牌
揭示等ノ事
- 第五十三 養子戸主離縁願ノ事
- 第五十四 五十歳未滿士族隱居願ノ事
- 第五十五 他家ノ女子ヲ以相續ノ事

- 第五十六 社寺建物新築修繕又ハ取毀ノ事
- 第五十七 社寺境内官有地ノ枯木倒木ヲ處分スル事
- 第五十八 士族死亡跡相續及除族跡襲族延期願ノ事
- 第五十九 除族者復籍願ノ事

○郡役所規則

明治十二年二月十八日
乙第十五號達

第一章

一 每日午前第九時出勤午後第三時退退之事

但勤務時間六時間ヲ減セシテ出勤退出ノ時限ヲ伸縮スルト事務繁劇ノ際勤務時間ヲ増ストハ郡長ノ見込ニ任ス尤大暑中七月十一日ヨリハ午前第七時出務正午十二時退職ノ事

一 御祭日御祝日年末九日ヨリ二十並毎日曜日休暇ノ事
但土曜日ハ正午十二時ヨリ休暇ノ事

第二章

一出勤簿ハ郡長郡書記ノ姓名月日ヲ列次記載シ毎日各自
捺印シ病氣出張巡廻忌引歸省等ハ夫々其標印ヲ捺ス可
キ事

但郡長郡書記毎一年間ノ出勤病氣其他ノ日數一名毎

ニ調査シ翌年一月縣廳ヘ届出可シ

第三章

一 郡役所事務繁多又ハ差掛リ調物等ニテ退廳午后八時ヲ
過レハ郡長郡書記辨當料各金三錢五厘ヲ給シ十二時ヲ
過レハ七錢徹夜ハ九錢五厘ヲ給ス小使ハ壹度ニ付貳錢

五厘ヲ給ス

但代料又ハ現物ニテ交付スル儀ハ適宜タルヘシ

第四章

一 休日當直毎夜宿直ハ書記ノ内一人小使一人宛順次相勤

ムヘキ事

但宿直ノ書記以下ハ夕朝兩度分辨當料七錢ヲ給シ小

使ヘハ五錢ヲ可給事

第五章

一 給仕小使給額ハ一月日給金拾三圓八拾錢ト相定其人
員及雇給ハ事務ノ繁閑ニ依リ適宜之ヲ定メ給額ノ内ヨ
リ支給ス可シ

第六章

一 郡長郡書記筆墨料壹ヶ月各拾貳錢五厘宛毎月十七日廳中費ノ内ヨリ月俸ト共ニ支給ス可キ事

第七章

一 委任事件ニ付願伺書等へ指令及ヒ他府縣へ照會等ノ節
二 郡以上所轄ノ郡長肩書ノ儀甲郡事件ハ甲郡名而已乙郡事件ハ乙郡名ノヨリ記シ若シ所轄郡總テ關係ノ事件ハ甲乙丙丁共郡名ヲ記ス可キ事

他府縣へ照會書式

云 此旨及御照會候也 鹿兒島縣甲郡々長何之某

印官

云 此旨及御回答候也 鹿兒島縣何郡何郡々長何之某

印官

人民へ指令書式

郡印ニ
テ扣
切ト

書面願之趣開屆候事

鹿兒島縣乙郡々長何之某

印官

書面願之趣ハ何々ニ付難開屆事由難開屆候事

鹿兒島縣甲郡乙郡々長何之某

印官

書面伺之趣ハ何々候儀ト可相心得事

鹿兒島縣丙郡丁郡々長何之某

印官

右ノ外概シテ準據ス可シ

第八章

一 公用印判及寸法左ノ通民費ヲ以テ彫刻ス可キ事

但官印ハ私事ニ用ル儀不相成且本人轉免等ノ節ハ其郡役所へ返納スヘシ

曲尺六分四方

郡長
某
之印

曲尺一寸三分四方

何々郡
何々郡
何々郡
役所
何々郡
何々郡
何々郡
印

乙第十八號

郡役所

郡長ヨリ其部内限り布達スル事件又ハ戸長限リヘ達スル事件ハ其事ノ大小トナク撥行ノ後直ニ縣廳へ可届出此旨相達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年二月廿日 鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

○月給定則

明治十二年二月十八日
乙第二十六號達

第一條 郡長郡書記以下月給ハ毎月十七日支給スルモノ

但免職病死等ノ時ハ此限ニ非ス

第二條 月給ハ一月ヲ前後三分チ新任十五日前ニアル者

其全額ヲ給シ十六日後ハ半額ヲ給スルモノ下スル者

但昇等増給モ亦本條ニ準ス降等及免職病死十五日前

ニアル者ハ猶舊等ノ給半額ヲ給シ十六日後ハ其全額

ヲ給ス尤免職ノ者擔當事務引渡ニ付時日ヲ要ス

或時ハ其日數間ハ舊等ノ月給ヲ日割ニシテ給ス上半

免職ノ者ハ下半月ヨリ下半

第三條 轉任ノ者月給増減ハ第三條ノ如ク十五日前後ヲ

以テ區別ス譬ヘハ甲郡在務ノ吏員十六日後乙郡吏員ニ
 轉スル時ハ前半月分ハ甲郡ニ於テ給シ後半月分ハ乙郡
 ニ於テ給スル類ノ如シ
 但本條轉任ノ者ハ舊事務引渡ヲ爲メ時日ヲ要シ未タ
 新任ノ事務ニ著手セサルモ月給ハ新等ヲ以テシ新任
 ノ郡ニ於テ給スルモノトス
 第四條 公事失錯ニテ糺問中ハ月給全額ヲ給ス私事ニ涉
 ル糺問ト雖モ日數十五日迄ハ尙全額ヲ給スヘシ預ケ中
 或ハ事故アリテ出仕差止ル者及ヒ私事糺問日數十六日
 以上ニ及フ者等ハ共月十五日前後ヲ區分シ減シテ五分
 ノ一ヲ給ス實決閏刑ニ處セラルト者ハ一切給セサルヘ
 シ

但出仕差止ル者及私事糺問十六日以上ニ及フト雖モ
 無罪ニ歸スルキハ全額ヲ給スヘシ
 私事訴訟ノ原被告人又ハ証人引合人ト爲リ之カ爲メ
 出勤セサル日數十六日以上ニ及フ者ハ本條ニ準シテ
 五分一ヲ給スヘシ
 第五條 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ休暇中月俸半額ヲ給ス
 ヘシ若シ休暇中公務ヲ命スルキハ奉務中月給全額ヲ給
 シ其日數ハ休暇中ニ算入セス
 但計算方法譬ヘハ十五日前奉職地ヲ發足スル者ハ下
 半月分ヨリ減給シ十六日後發足スル者ハ翌月ヨリ減
 額スヘシ
 第六條 病氣引ノ者ハ四ヶ月ノ間月俸全額ヲ給シ其後ハ

三分ノ一ヲ給スルハ必ス醫案ヲ副ヘ届ケ出猶在
 但病氣引十五日ニ至ラハ必ス醫案ヲ副ヘ届ケ出猶在
 其數月ニ暨スルハ六十日毎ニ其病狀ヲ届ケ出ツヘシ
 病氣引日數ハ引籠少日ヨリ起算スヘシ
 右病氣引四分月計算シ方法譬ヘハ十五日前引籠ノ者
 ハ下半年ヨリ之ヲ算シ十六日後引籠ノ者ハ翌月ヨリ
 之ヲ算スヘシ
 第七條 奉職ノ地ニ於テ父母病氣危篤ニ付看病ノ爲メ許
 可ヲ得テ休暇スル者ハ第六條ニ準ス
 第八條 忌引中ハ月給全額ヲ給シ且父母忌中墓參シ爲メ
 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ其忌引日限中ハ同シク全額ヲ
 給シ其餘日數ハ減給スルハ第五條ニ準スルモノトス

但歸郷休暇中父母ノ喪ニ遭フ者モ亦本條ノ通タルヘシ

第九條 任狀拜受々書差出置職ニ著カスシテ辭表差出ス
 者ハ月俸一切給セサルヘシ
 第十條 上下半月内ニ免職ノ者再任スレハ都テ轉任ノ例
 ニ倣ヒ第十一條ニ準シ其俸ヲ給スヘシ
 第十一條 一月内再三轉任スル者ハ月俸支給ノ定日在職
 ノ役所ニ於テ十五日前後ノ區分ヲ以テ通算シ其官相當
 ノ俸ヲ給ス若シ十八日後轉任昇等ノ者ハ新任ノ役所ニ
 於テ其増額ヲ給スルモノトス
 第十二條 免職ノ者事務引渡シ濟ミ後在職中ノ事件ニ付
 更ニ出頭ヲ命スルハ舊官俸給半額日割ヲ以テ之ヲ給

但在職中自己不正ノ事件ニ付出頭セシムルハ給セサルヘシ

郡長月俸等級表

等月級俸	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
郡長	八拾圓	七拾圓	六拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓

郡書記月俸等級表

官郡書記等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	十六等	十七等
月俸	貳拾圓	拾八圓	拾六圓	拾四圓	拾貳圓	拾圓	八圓	六圓

○旅費定則

第一章

明治十二年二月十八日
乙第二十六號達

一陸路水路トモ運テ旅中一切ノ費用トシテ表面ノ通旅費日當ヲ支給スヘシ

第二章

一陸路旅費ヲ四分シテ並旅行巡回赴任旅行晝夜急行トナシ各一日十里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ支給ス十里以上ノ端里數滿一里以上ハ日當一日分ヲ給シ一里未滿ハ勿捨可シ

第一項 並旅行ハ該廳ヨリ片道六里以上ヨリ之ヲ給ス片道六里未滿ハ第四項ニ準ス

第二項 赴任旅行ハ在勤ニ總テ其所ノ常務及新任轉任ノ節該廳へ三里以上ヨリ一切給セスハ之ヲ給ス尤新任ノ者ハ第十三章ニ依テ之ヲ給ス

第三項 晝夜急行ハ第一項ニ準シ急行ノ日當ヲ給ス一日
 或ハ半日間急行スルモ亦同シ
 第四項 該廳ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ出張巡廻ニ拘
 ラス總テ近方派出トシ片道三里未滿ニシテ日歸ナレハ
 日當ヲ給セス一泊スレハ滞在日當ヲ給シ片道三里以上
 六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行日當一日
 分ヲ給シ滞在スレハ滞留日當ヲ給ス
 第五項 出張先滞在中片道三里以上ノ地へ派出ノ節ハ第
 四項ニ準シ並旅行ノ日當ヲ給ス尤三里未滿ノ地へ同斷
 ノ節ハ第三章滞留日當ノ外一切給與セス
 第六項 行旅中渡海ニ非ラサレハ至リ難キ場所ハ海路ニ
 入セ

十里 海路一里ハ陸路十ヲ以テ陸路十里同様見做シ本章
 六丁九分七厘五毛ノ海路二十里未滿ノ端數ハ本章
 ニ準シ並旅行日當ヲ給スノ割合ヲ以テ陸路へ通算ス
 第七項 巡廻ハ檢田測量其他巡視等ノ類總テ日數ニ應シ
 里程ハ並旅行日當ヲ給ス但シ近方派出ハ第四項ニ準シ
 滞在ノ節ハ第三章ニ準ス
 第八項 十里外ヨリ始ル巡廻及ヒ此地ヨリ彼地へ移ルト
 キ十里以上ノ場所ハ本章ニ準シ並旅行日當ヲ給シ即日
 巡廻スルトモ其日ハ別ニ日當ヲ給セス尤十里未滿ハ第
 七項ニ準シ日數ヲ以テ給ス
 第九項 測量或ハ堤防等ノ事業ニテ巡廻滞在中旅宿ヨリ
 其測量等ノ場所へ日々派出スルモ日歸ナレハ里程ニ拘
 ハラス別ニ旅費ヲ給セス滞留日當ノミヲ給ス一泊以上

ハ里程ニ拘ハラズ第七項ニ準ス
第三章

一臨時地方出張ハ著翌日ヨリ滞留日當ヲ支給ス可シ

第一項ニ晝夜急行或ハ便船等ニテ陸路日積ヨリ早着スル

トモ本章ニ準シ滞留日當ヲ給ス

第二項ニ行旅中川留雪支或ハ病氣等ニテ延滞セシ向ハ増

日數ノ分滞留日當ヲ給ス但シ川留雪支ハ其所戸長ノ証

書病氣ハ醫師ノ診察書ヲ差出ス可シ

第三項ニ出張先病氣ニテ許可ヲ得事務半途ニシテ該廳へ

歸ル者ハ旅費ヲ給シ重症ニテ一時其地ニ滞在ヲ乞フ者

ハ醫師ノ診察書ヲ以テ願出レハ滞留日當及歸廳ノ節ハ

旅費ヲ給ス

第四項ニ三里以上ノ地ヨリ採用ノ向ハ着翌日ヨリ拜命ノ

前日マテ表面三等ノ滞留日當ヲ給ス

第五項ニ歸省或ハ養病ニテ他所滞在中轉任ノ者ハ其滞在

地ヨリ新任廳マテノ旅費ヲ給シ滞在地ヨリ前官廳マテ

ノ旅費ハ給セス

第四章

一免職ノ者其日ヨリ三十日以内ニ歸郷願出ル者ハ前官ヲ

問ハス第十三章ニ照シ其在勤又ハ出張ノ地ヨリ郷里マ

テ支給ス可シ

里程制限ハ第二章第二項ニ準ス

第一項ニ免職後歸郷セサル内ニ再任スル者ハ旅費悉皆返

納ス可シ

第二項ニ歸省或ハ養病ニテ他行中免職又ハ死去ノ者モ本

章ニ準シ奉職ノ地ヨリ郷里マテ歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス在勤地ニ於テ死去ノ者モ亦同シ

第三項 他方在勤ノ者免職ノ節復命セシムルハ其地ヨリ復命スル地マテハ前官相當ノ旅費ヲ給シ夫ヨリ郷里迄歸郷ノ旅費ヲ給ス

第四項 出張先ニ於テ免職ノ節家事取纏メノ爲メ從前在職ノ地ヘ立戻ル者ハ出張先ヨリ從前在職ノ地迄ハ表面三等ノ並旅行日當ヲ給シ夫ヨリ郷里マテ第十三章ニ依リ歸郷ノ旅費ヲ給ス尤復命セシムルハ第三項ニ準據ス出張先ニ於テ死去ノ節ハ該地ヨリ從前在職ノ地マテハ表面三等ノ並旅行日當ノ額夫ヨリ郷里迄ハ第十三章歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス

第五項 犯罪又ハ嫌疑等ニテ鞫問中職ヲ免スル者其處決以上罪破廉耻甚ニ該ル歟又ハ私罪懲役一年以上ノ刑ヲ受ル者ハ歸郷旅費ヲ給セス

第五章

一 傭ノ名義ヲ以テ出仕セシムル者ハ總テ表面三等ノ旅費ヲ支給ス可シ給仕小使諸職人ノ類亦同シ

第一項 該廳へ三里以外ノ地ヨリ呼寄セシ向ニ限り雇入並罷免ノ旅費ヲ給ス但三里未滿ノ地ニテ雇入ノ者ト雖モ他所在勤中或ハ出張先ニ於テ罷免ノ節ハ該地ヨリ歸郷ノ旅費ヲ給ス

第二項 諸職人等出張先ニテ其業ニ就キ相當ノ賃錢ヲ支給スル分ハ該地滯在中日當ハ給セス

第六章

- 一 他方在勤或ハ出張ヲ命スル後其廳ノ都合ニヨリ免セシ者又ハ出發前死去ノ者ハ片道里程三分一ノ旅費ヲ給シ
- 巡廻ハ見積リ總日數十里外ヨリ始ル巡廻及ヒ此地ヨリ
- ニ直シ算入シ滯留六分一ノ旅費ヲ給ス尤願ニ因リ免シ
- 日數ハ算入セズ
- タルモノハ一切支給セサル可シ
- 第一項ニ並旅行ノ者出發後半途以内ヨリ呼戻セシ者ハ片
- 道分ノ旅費ヲ給シ半途ヲ過キ同様ノ者ハ其里程ニ應シ
- 相當ノ旅費ヲ給ス
- 第二項ニ巡廻ノ者出發後半途見積リ總日數四以内ヨリ呼
- 戻セシ節ハ見積リ總日數章ニ算法ノ半數ノ旅費ヲ給シ半
- 途ヲ過キ同様ノ節ハ日數又ハ里數ニ應シ相當ノ旅費ヲ

給ス

第七章

- 一 免職ノ者事務引渡済ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ
 - 命スルキハ前官相當ノ並旅行費ヲ給シ當時在職ノ者ハ
 - 其官相當ヲ以テ支給ス
 - 一 往時奉職中ノ公務ニ付糺彈鞠問等ノ呼出ヲ受ル節モ亦
 - 前條ニ準ス但シ處決ノ上私罪ニ該ル者ハ一切之ヲ給セス
- 第八章
- 一 一日ノ内並旅行ヨリ晝夜急行へ跨ル如キ旅行ハ總テ其
 - 旅費額ノ多キ方ヲ以テ支給ス可シ

第九章

- 一 歸省其他養病等許可ヲ得ル者ト雖モ私事ニ涉ル旅行ハ

一 御支給セサルハシ
第一項 歸省其他養病中官ノ都合ニ依リ歸廳ヲ命スル者

第二項 私事ヲ以テ他行中御用命セラル者御用中滞在

日當及ヒ歸廳片道旅費トモ定則ノ通支給ス可シ他行先

旅用有之地マテノ尤御用濟猶私事滞在ヲ願フ者ハ御用濟

旅費モ亦同シ滞日ヨリ滞在日當並歸廳ノ旅費トモ給セサル可シ

第十條 第十條

一 近方巡廻ハ發廳ヨリ歸廳迄里程ヲ通算シ十二里未滿ノ

一分ハ第二章第四項十二里以上ナレハ同第七項ニ照シテ支

給ス尤十二里未滿ノ里程ヲ二泊以上檢田測量巡廻スル

外里程六里未滿ハ其泊數ニ應シ滞留日當ヲ支給シ六里

以上ハ並旅行日當一日分及ヒ其二泊目ヨリ每泊滞留日
當ヲ支給ス

第十一章

一 管轄境論地見分並甲乙縣官吏管内御用ニ付協議ノ爲メ

一時管外接近ノ場所へ出張或ハ御用都合ニ依リ他管轄

ヲ經過泊宿スルモ元來管内御用筋ナルヲ以テ悉皆管内

旅費ヲ支給ス可シ尤管外派出ト雖モ管轄境ヨリ壹里ニ

充タサル端里數ハ管内ニ準シ旅費ヲ給ス

第十二章

一 三里未滿ニシテ日歸ト雖モ急行ノ向ニ限リ實際消費セ

ル車馬賃ヲ給ス

第十三條 第十三條

一 新任ノ者三里以外ノ地ヨリ採用ノ節該廳着當日迄ノ旅費ハ一日十里詰ヲ以テ壹圓九拾錢ヲ給シ郡長以下備ニ至ル迄罷免ノ節ハ第五章第一項ニ準シ歸郷旅費トシテ同壹圓九拾錢ヲ支給ス可シ

郡長郡書記以下管内旅費日當表

職名等級	並旅行	巡廻	赴任旅行	晝夜急行	滞在
郡長 一等	一圓六拾錢	一圓	貳圓五拾錢	貳圓五拾錢	五拾錢
郡書記 二等	一圓貳拾錢	八拾錢	貳圓	貳圓	四拾錢
備 三等	四拾五錢	三拾錢		八拾錢	拾八錢

乙第廿五號

郡役所

今般郡制施行ニ付左ノ條々處分方心得ル爲メ相達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年二月廿一日

鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

- 一 戶長ニ附屬スル用掛筆生手傳人等ヲ雇フルハ郡長ノ許可ヲ得戶長ニ於テ申付可シ
- 一 但給料等ハ縣廳ニ於テ定ムル所ニ從フヘシ
- 一 郡長ニ於テ其擔任ノ事件ヲ施行スル文書ニハ郡長ノ名印ヲ用ユヘシ
- 一 従前縣廳ニ於テ取扱タル諸營業鑑札自今郡役所ニ委任シテ取扱ハシムル者ハ郡役所ノ名ニ改ムヘシ
- 一 郡役所ニ於テ採用スル諸員ハ用掛筆生手傳人等ニ準等ナキモノト心得ヘシ
- 一 數町村ニ戶長ニ員ヲ置ク時其役所印ノ冠字ハ戶長ノ

- 管理スル所ノ各町村名ヲ列記ス可シ
- 一 戸長旅行病氣忌引等ニテ不在ノ節ハ用掛筆生又ハ手傳人等ヲ以テ其職務ヲ取扱ハシムルヲ得
- 一 郡長書記ハ一般ノ官吏ト同ク商賈ノ營業相成サル儀ト心得ヘシ
- 一 郡長ハ行政事務委任ノ權内ニ付テハ戸長ニ命令スル權アリト心得可シ
- 一 郡長ノ席順ハ拜命ノ前後ニ依テ定ム可シ
- 一 地所建物船舶等質入書入及賣買スルニハ町村戸長ノ公証ヲ要スル成規ノ處町村戸長ニシテ自分所有ノ地所建物船舶等質入書入及賣買セントスルキハ戸長次席ノ役ヲ務ムル者(用掛筆生)ニ取扱ハセ公証ノ割印ハ戸長役所

ノ印ヲ用ヒ其由ヲ割印帳ニ登記シ置クヘシ

一 町村戸長ノ役場ハ其町村ノ便宜ニヨリ私宅ニ於テ事務ヲ取扱ハシムルモ苦カラス

○ 金錢出納順序

明治十二年二月十九日
乙第廿八號達

凡ソ金錢ヲ出納スルノ順序ハ須ク先ツ簿書ノ體裁ヲ精覈ニシテ日々ノ入出ヲ遺漏錯雜ナキ様詳記スヘシ日々ノ計算精密ナレハ月計歲計ニ至リ自ラ明瞭ニシテ獨調査考檢ノ勞費ヲ省クシミナラス矛盾錯謬ノ弊ナキニ至ル可シ依テ茲ニ其處務ノ順序簿冊ノ體裁ヲ約畧シ左ニ掲ク

一 金錢ノ出納ヲ登記スル帳簿ノ類ハ左ノ體裁ニ從フヲ則トス

日計簿

此簿冊ハ本假拂ハ勿論返納交換等ニ至ルマテ毎日出納
スル一切ノ金錢ハ無洩員數及ヒ受入拂出ノ旨趣人名等
ヲ式ノ如ク詳記シ納拂共ニ切符ヘ同一ノ番號ヲ付シ主
務ノ吏員檢印郡長之レニ割印シ日毎ニ納拂ノ合計ヲ差
引現金ノ有高ヲ部分シテ諸受拂帳追算簿等ニ編入登記
シ月末ニ至リ總計各ノ入拂高ヲ區別シ以テ其編入スル
處ノ帳簿合計ト照合スヘシ

爲換方ニテハ

金錢預ケ帳

金錢預リ帳

同受取帳

同

同

金錢上納帳

此簿冊ハ郡役所ヨリ爲換方ヘ金錢ヲ預ケ或ハ預金ヲ取

出ス時取替ノ証ニシテ元受帳ニ冊拂出帳ニ冊ヲ製シ金
銀ヲ預ル時郡役所之預ケ帳ト爲換方預リ帳ト兩帳一様
ノ証文ヲ登記シ預リ人之証印ヲ取り郡長之レニ割印シ
預ケ金ヲ拂出ス時ハ請取帳ト一様ニ証記シ前同様郡長
割印シ一帳ハ郡役所ニ備ヘ置一帳ハ預リ人ヘ交付ス而
シテ其預ケ金取出ス時並納金ヲ相預ル時ハ左ノ順序ニ
從フヘシ
一 納金ハ納人ヨリ直ニ預リ人ヘ相渡預リ人ハ金質見改メ
上其員數事由及ヒ納人ノ姓名ヲ記セシ預リ切符ヲ納人
ヘ渡スヘシ納人ハ此切符ヲ以テ郡役所ヘ上納スヘキナ
リ郡役所ニ於テハ式ノ如ク日計簿ニ登記シ郡長名印ノ
領收證書ヲ作り日計簿ト同一番號ヲ付シ主務ノ吏員檢

印郡長割印ノ上納人ニ下付ス而シテ切符ハ月末取束預
 リ帳へ移載シ郡長之レニ割印シテ預リ人へ下戻スヘシ
 一預ケ金ヲ取出ス時ハ其金員ト費用ノ要旨ト受取人ノ姓
 名トヲ記載セシ切符ヲ作り日計簿ト同一ノ番號ヲ付シ
 主務ノ吏員之ニ檢印シ郡長割印ノ上受取人ニ交付ス受
 取人ハ此切符ヲ以テ預リ人ヨリ現金ヲ受取ヘキナリ右
 ノ切符ハ月末ニ至リ合計シテ預リ人ヨリ出サシメ日計
 簿ト照查シ切符ハ消抹シ而シテ預ケ帳へ其月出金總計
 若干預ケ金高若干ト通算登記シ其金員へ郡長割印シ此
 差引殘金高ヲ以テ翌月預ケノ元ニ立ツヘシ
 一凡ソ官金ヲ爲換方ニ預クルニハ例規ニ照シ相當ノ價
 ル不動産ヲ書入マル証券又ハ公債証券ヲ領收シ異日相

違ナキ様精密注意スヘシ

但不動産公債証券等ノ金高ニヨリ其預高ヲ參酌増減
 シ時々爲換方ニ至リ現金ヲ點檢スヘシ

金錢受拂帳

日計簿金錢納拂之本假ハ勿論重複混淆等ノ儀無之様一
 ヲ點檢考査ノ上費目ニ隨テ部分登記シ而后精密算勘シ
 元拂殘ノ合計差謬ナキヲ要シ以テ勘定帳仕組ノ根據
 トスヘシ

追算簿

凡ソ日計簿ニ掲クル入拂ノ内決算ニ至ラサルモノハ本
 入拂ト錯綜セサル爲詳悉部分ヲ如式此ノ帳簿ニ明瞭登
 記シ而シテ假拂ノ廉決算ニ至ルキハ最前ノ假拂ヲ消シ

紙 表

何年
日計簿
何郡役所

元受之部

何月何日

預リ切符ト番號ヲ同フス

何號 一 金何程 ○主任檢印 何月ヨリ何月迄經費請取

何號 爲換方預切符エ郡長割印ス

何號 一 金何程 何誰何月何日旅費假

渡金返納

郡長

小以金何程 ○主任 一口ノ元受二兼以上ノキハ

通計金何程 ○同二口以上如此通計ヲ掲クヘシ

以下倣之

拂出之部

何月何日

交付切符ト番號ヲ同フス

朱 何號 一 金何程 ○主任檢印 何月分月給郡長何誰渡

朱 何號 一 金何程 交付切符ト郡長割印ス

朱 何號 一 金何程 同上何等書記何誰外何人渡

朱 何號 一 金何程 何品買上代何誰渡

朱 何號 一 金何程 旅費前借何誰渡

小以金何程○
通計金何程○
差引殘之部
何月何日

郡長
一 金何程○主任檢印
何月何日
全上
一 金何程○全上

何年自何月 至何月	金錢受拂帳	何郡役所
--------------	-------	------

定額之部
俸給元之部

何月何日
一 金何程○主任檢印
何月何日
郡長以下月ヨリ何月迄

一 金何程○是ハ二季目ヨリ
書記月給前六ヶ月越

郡長
小以金○何程○主任

通計金何程○二口以上如此通計ヲ付ス
同拂之部

何月何日
一 金何程
何月分郡長某月給渡

何ノ誰或ハ何縣何官何ノ誰何月何日拜命同月上下又ハ全額月給渡

事故有之例

何月何日

一金何程

同上書記某外何人月給渡

何月何日

一金何程

雇何ノ誰月給渡

朱書

何月何日

一金何程

朱書
何々假拂

小以金何程○

通計金何程○

内金何程

假拂

同差引殘之部

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

本拂之内償還ニ付殘金増加

小以金何程

旅費元受之部

何月何日

一金何程

何月ヨリ何月迄旅費請取

朱書

以下都テ俸給之部ニ同シ尤事故可成詳細ニ認メヘシ

定額元受合計之部

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

通計金何程

同拂ノ部

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

通計金何程

同差引殘之部

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

何月何日

朱書 內金何程

假拂

朱書 內金何程

假拂

豫備金元之部

何月何日縣廳ヨリ受取

同繰替拂之部

何々

何々

小以金何程

通計金何程

金何程

金何程

小以金何程

差引金何程

同差引殘之部

何月何日

一金何程

總計元之部

何月何日

一金何程

何月何日何々繰替拂返納

何々

同拂之部

何月何日

一金何程

差引殘之部

何月何日

一金何程

朱書
内金何程

假
拂

表

何年自何月
至何月

追算簿

紙

何郡役所

何月何日

一金五圓

何官何誰何地出張旅費
假渡

一金拾圓

何々

小以金拾五圓

何月何日

一金貳拾圓

何々

小以金

通計金三拾五圓

内

金五圓

何月何日何誰返納

金拾圓

何々

小以金拾五圓

差引金貳拾圓

○地方税領収之順序

明治十二年六月廿一日
乙第四百四十號達

一 地租 割諸營業税雜種税ヲ收納スルハ第壹號ヨリ第三

號迄ノ雛形ニ倣ヒ臺帳ヲ製シ課目課額及ヒ町村住所姓

名等ヲ詳記スヘシ

但船車ハ國税臺帳ヲ兼用シ地方税納濟ノ節ハ地方税

納濟

ノ印ヲ捺スモノトス

一 税金納期前臺帳人名ヲ調査シ遅クモ十日以前納メ日割

ヲ納稅者へ相達スヘシ

一 税金戸長ヨリ收入スル時ハ上納証ヲ出サシメ(上納証ハ

八號第九號ニ)主務ノ郡吏調査シテ其金員ニ捺シ收入日

依リ製スヘシ(第四號)書式ノ如ク登記シ後チ其上納証ヲ戸長ニ

計簿へ(第五號)

渡ス戸長ハ其檢印ヲ受テ後爲替方エ上納証ヲ添現金ヲ
渡シ其預リ切符並上納証共受取之ヲ郡役所エ相納ムヘ
シ而シテ郡長ハ戸長ヘ請取証書ヲ渡ス其領收ノ証ハ第
十號書式ニ倣フヘシ

但預リ切符ヲ爲替方ヘ渡スハ出納規則ニ依ルヘシ

一税金請拂日計簿ハ第六號書式ニ倣ヒ地方税一切ノ收出金
額ヲ登記シ差引殘金等ヲ日々遺漏ナク詳記スルモノトス

一税金領收濟ノ上ハ郡長ハ其税金ニ上納証相添ヘ翌月五
日限該地差立縣廳ヘ相納ムヘシ

一地方税ハ半年度毎計算表ヲ(第十二號十三號十)調製シ其
年七月ヨリ十二月迄ノ分ハ翌年一月十五日限翌年一月
ヨリ六月迄ノ分ハ七月十五日限縣廳エ差出スヘシ縣廳

ニ於テハ之レヲ檢査シ一ケ年度分完納ニ至ルキハ皆濟
証書ヲ交附スヘシ

一演劇場其他諸興行遊覽所等ノ税金ハ施行規則ニ依リ其

時々戸長役場ヘ取立上納証(上納証ハ第十一)相添郡役所

ヘ相納郡長ハ上納証相添翌月五日限該地差立縣廳ヘ送

納スヘシ

一月税ノ定メアル營業ハ毎月々末限戸長ニ於テ取纏メ上

納証(上納証ハ第十一)相添翌月五日限郡役所ヘ相納メ郡

長ハ領收後三日間ニ上納証相添該地差立縣廳ヘ送納ス

ヘシ

一年税ノ定メアル營業ヲ新規營ム時ハ營業者ヨリ半季分

ノ税金ヲ直ニ戸長役場ニ收入月纏メヲ以テ上納証(上納

入數ノ多寡ニ依リ第七八十一號ノ相添翌月五日限郡役書式ニ依リ適宜調製スルモノトス所へ相納郡長ハ領収後三日間ニ上納証相添該地差立縣廳へ送納スヘシ

地方稅取扱心得書

一營業稅ノ課目中ニ登記スル營業ノ起廢ハ戶長ヨリ郡役所へ時々爲届出郡役所ニ於テハ臺帳へ記入シ一ヶ月取經メ縣廳へ届出スヘシ

一雜種稅課目中ニ登記スル商業ヲ營ム者ハ施行規則ニヨリ渡スヘキ鑑札ハ各郡役所ニ於テ第十五號雛形ニ倣ヒ調製シ其費用ハ郡役所經費ノ内ヲ以テ支辨スヘシ尤鑑札料及書換手数料ハ収入スルニ及ハス

一入會漁業場願出ル時ハ其失費ノ額ト現揚高トヲ以テ益

金ヲ算出シ一項ノ等級割ヲ以テ賦課スル事ヲ要ス漁業場ヲ願出ル時ハ實地ニ臨ミ故障有無ヲ取糺シ差支無之ニ於テハ前同様失費ノ額ト現揚高トヲ以テ益金ヲ算出シ二項ノ等級ニ照シ賦課スル事ヲ要スヘシ

漁業願ノ儀ハ當時縣廳直管ト雖モ追テ委任ノ節ハ本條ニ照準取扱フモノトス

一項入會漁業場稅 四等ニ分ツ

一 百圓以内 四等稅 金五十錢

一 百圓以上二百圓迄 三等稅 金壹圓

一 二百圓以上六百圓迄 二等稅 金三圓

一 六百圓以上 一等稅 金六圓

二項漁業場稅

五拾圓以內 四等税 金五十錢
 五拾圓以上百五拾圓迄 三等税 金壹圓
 百五拾圓以上三百圓迄 二等税 金三圓
 三百圓以上 一等税 金六圓
 一演劇箇所及ヒ興行等ノ儀ハ明治十一年甲第百廿九號布
 達ニ照準取扱フヘシ
 一地方税内納メタリヒ收入スル處ノ金額ヲ税目限リ端金
 迄悉皆上納スヘシ且此税ヲ彼税ヘ繰替納等ノコハ決シ
 テナスヘカラス
 第壹號
 諸會社 商 臺帳
 諸卸賣

朱書一仲買小賣商臺帳之レニ倣フ

何年度	金何圓	何月何日	何村何番地
前半年額	金何圓	何月何日	何村何番地
同半年額	金何圓	何月何日	何村何番地
後半年額	金何圓	何月何日	何村何番地

年税金何十圓
 朱書
 突合セ印以下之レニ倣フ

前半年額	金四圓	何月何日	何村何番地
年税金八圓			何村何番地
吳服商			何村何番地
二等			何村何番地
卸賣商			何村何番地

	後半額	前半額			
	金三圓五拾錢	金三圓五拾錢	年税金七圓	生蠟商	三等
	何月何日	何月何日			
				何村何番地	某

六十三

	後半額	前半額			
	金四圓	金四圓			
	何月何日	何月何日			

	一年税金八圓	蠟節商			
				何町何番地	某

	後半額	前半額			
	金四圓	金四圓	年税金八圓	洋物商	
	何月何日	何月何日			
				何村何番地	某

	後半額	金四圓	何月何日	

六十二

前半額	後半額	五等	何村何番地
年税金五圓	下駄商		何, 某

六十五

後半額	前半額	銅鐵商	何町何番地
金三圓	金三圓	年税金六圓	何, 某
何月何日	何月何日		

後半額	前半額	陶器商	何村何番地
金三圓	金三圓	年税金六圓	何, 某
何月何日	何月何日		

後半額	前半額	年税金六圓	何村何番地
金三圓	金三圓		何, 某
何月何日	何月何日		

後半額	前半額	年税金七圓	何町何番地
金三圓五拾錢	金三圓五拾錢		何, 某
何月何日	何月何日		

六十四

	後半額	前半額			
	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	年稅金五圓	太物商	
	何月何日	何月何日			
				何町何番地	某

六十六

	後半額	前半額			
	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	年稅金五圓	太物商	
	何月何日	何月何日			
				何町何番地	某

六等

	後半額	前半額			
	金貳圓	金貳圓	年稅金四圓	樟腦商	
	何月何日	何月何日			
				何村何番地	某

	後半額	前半額			
	金貳圓	金貳圓	年稅金四圓	生糸商	
	何月何日	何月何日			
				何町何番地	某

六十七

前半額		
金壹圓	年税金貳圓	青物商
何月何日		
		何町何番地 何, 某

六十九

後半額	前半額			
金壹圓	金壹圓	年税金貳圓	漬物商	八等
何月何日	何月何日			
			何村何番地 何, 某	

後半額	前半額			
金壹圓五拾錢	金壹圓五拾錢	年税金三圓	瓦商	
何月何日	何月何日			
			何町何番地 何, 某	

後半額	前半額			
金壹圓五拾錢	金壹圓五拾錢	年税金三圓	指物商	七等
全	何月何日			
			何村何番地 何, 某	

六十八

後半額	金	壹	圓	何月何日

七十

紙 表
第二號
雜種稅臺帳

朱書 租稅係ツノ印ヲ以テ各種鑑札ト
押切及ヒ番號此書式ニ倣フ

何號	演	劇	揚	興	行	日	數	高	全	百	分	五
一金	何程	○	何月何日	何村何番地	某							

朱書 突合印以下倣之		朱書 諸興行諸遊覽所做之	

何號	突	年稅金拾圓	何町何番地
玉			某
何年度	金	五	圓
何月何日	何月何日		
同半年額	金	五	圓
後半額	金	五	圓

諸遊覽場、料理屋、西洋料理、人寄席、質屋、
兩替屋、回漕屋、古着屋、古金商、古道具商、
書畫商、骨董商、旅館、籠屋、諸飲食店、湯屋、雇
人受宿、理髮床、相撲、水車、遊藝師匠、
都テ倣之

七十一

後全 半額	前何 半年度	
金貳拾五錢	金貳拾五錢	乘馬自用
何月何日	何月何日	壹頭=付 年税金五拾錢
		何(町村)何番地 何 某

七十三

			金三圓	金三圓	藝妓
			何月何日	何月何日	月 稅
					何(町村)何番地 何年何月 某

	後何 半年度	前何 半年度		
	朱書 俳優倣之	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	遊藝稼入
	何月何日	何月何日	滿拾三歲以下 年税金五圓	
				何(町村)何番地 何年何月 某

	後同 半年額	前何 半年度		
	金五圓	金五圓	遊藝稼入	
	何月何日	何月何日	年税金拾圓	
				何(町村)何番地 何年何月 某

七十二

		地租		割			
後期	前期	內	地租金何百圓 何拾圓	但壹圓=付 金拾壹錢	何郡	何(町村)	
金何圓○	金何圓○	朱書 突合セ印以下之レニ做フ	何月何日	何月何日			

		地租金何百圓 何拾圓		但壹圓=付 金拾壹錢		何郡 何(町村)	
後期	前期	內	金何圓	何月何日	何月何日		
金何圓	金何圓						

		戶數		割			
		但金貳拾五錢		何郡		何(町村)	

後期	前期	內	金拾貳錢五厘	何月何日	何月何日		
金拾貳錢五厘	金拾貳錢五厘						

		一金貳拾五錢		何郡		何(町村)	
前期	內	金拾貳錢五厘					

	後	
	期	
	金拾貳錢五厘	

七十八

紙 表

第四號
營業
稅日計簿
雜種

收入日計簿へハ日々各戸長ヨリ差出セル上納証
ノ惣計金額及ヒ番號ヲ記入シ○印ノ如ク員數ノ
下へ郡吏檢印ヲナシ□印ノ如ク郡長領收証ト割

印ヲ捺ス
日々小計通計ニハ郡長檢印ヲナス

□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	金何拾何圓○	何月何日
屠牛稅	營業稅	藝妓稅	營業稅	何興行稅	營業稅	雜種稅	營業稅	營業稅	
何町長納何ノ某	何町長納何ノ某	何村長納何ノ某	何村長納何ノ某	何町長納何ノ某	何町長納何ノ某	何町長納何ノ某	何村長納何ノ某	何村長納何ノ某	

七十九

紙 表

第五號
地租
割收入日計簿
戸數

收入日計簿へハ日々各戸長ヨリ差出セル上納証ノ
 惣計金額及番號ヲ記入シ〇印ノ如ク員數ノ下へ郡
 吏檢印ヲナシ〇印ノ如ク郡長領收証ト割印ヲ捺ス
 日々小計通計ニハ郡長檢印ヲナス

一	何月何日	地	租	何村長納
〇	金何圓何拾錢			何ノ某

二	〇	金何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
三	〇	金何圓何拾錢	〇	何町長納	何ノ某
四	〇	金何拾錢	〇	何町長納	何ノ某
五	〇	金何圓何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
	〇	金何拾錢	〇	何町長納	何ノ某
	〇	金何圓何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
	〇	金何拾錢	〇	何町長納	何ノ某
	〇	金何圓何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
	〇	金何拾錢	〇	何町長納	何ノ某
内	〇	金何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
小計	〇	金何拾錢	〇	何村長納	何ノ某
〇	郡長印	何拾錢	〇	主務印	
金何拾圓何拾錢		戸地	租數		

第六號
 明治十二年七月ヨリ
 同 十三年六月マテ
 地方税金受拂日計簿

紙 表

朱書
 元ノ部ハ日々收入日計簿第四號第五號ヲ以テ小計
 ヲ此書式ノ通り税目ヲ區分シ記入ス
 拂ノ部ハ收入税金ヲ縣廳へ相納ムル金額ヲ登記ス
 ヘシ

元ノ部

何月何日

一金何程 ○ 主務ノ印以下倣之 營業稅

一金何程 ○ 雜種稅

一金何程 ○ 地租割稅

一金何程 ○ 戶數割稅

一金何程 ○ 興行稅

一金何程 ○ 藝妓稅

一金何程 ○ 屠牛稅

朱書
 ○郡長ノ印以下倣之

小計金何程 ○ 主務ノ印以下倣之

何月何日

一金何程 ○ 營業稅

通計金何程 ○

何月何日

一金何程○ 營業稅
 一金何程○ 地租割稅
 一金何程○ 戶數割稅
 小計金何程○
 通計金何程○

拂ノ部

何月何日
 朱書

一金何程○ 主務ノ印以下做之 營業稅上納
 一金何程○ 雜種稅上納
 一金何程○ 地租割稅上納
 一金何程○ 戶數割稅上納
 一金何程○ 興行稅上納

一金何程○ 藝妓稅上納
 一金何程○ 屠牛稅上納

朱書
 ○郡長ノ印以下做之

小計金何程○ 主務ノ印以下做之

何月何日
 朱書

一金何程○ 營業稅上納
 通計金何程○

何月何日

一金何程○ 地租割稅上納
 一金何程○ 戶數割稅上納
 一金何程○ 興行稅上納
 小計金何程○

生樟 系腦 商商	五 等	太下 物駟 商商	四 等	銅陶 鐵器 商商	三 等	鑄生 物蠟 商商	二 等	吳洋 服物 商商	一 等	諸 仲 買 商
壹圓 貳拾 五錢		壹圓 五拾 錢		壹圓 七拾 五錢		二圓 廿五 錢		二圓 七拾 五錢	稅 額	
何何 十十 八八		何何 十十 八八		何何 十十 八八		何何 十十 八八		何何何 十十 八八	人 員	
何 拾 圓		何 拾 圓		何 拾 圓		何 拾 圓		何 拾 圓	稅 金	

青濱 物物 商商	八 等	瓦指 物物 商商	七 等	生樟 系腦 商商	六 等	合 計 金 何 千 何 百 何 拾 圓 何 拾 錢
壹 圓		壹圓 五拾 錢		二 圓		
何何 十十 八八		何何 十十 八八		何何 十十 八八		
何 拾 圓		何 拾 圓		何 拾 圓		

仕
譯
書

合計金	青濱物商	七等	瓦指物商	六等	生樟系腦商	五等	太下物商	四等	銅陶鐵器商	三等
何千何百何拾圓何拾錢	壹圓		壹圓		五拾錢		壹圓		壹圓貳拾五錢	
	何何		何何		何何		何何		何何	
	十十		十十		十十		十十		十十	
	八八		八八		八八		八八		八八	
	何		何		何		何		何	
	拾		拾		拾		拾		拾	
	圓		圓		圓		圓		圓	

仕譯書

鑄生	二	洋吳	一	諸小賣商及雜商
物	等	節物服	等	
商		商商商	稅	
商			額	
壹圓五拾錢		壹圓七拾五錢	員	
何何		何何何	稅	
十十		十十十	金	
八八		八八八		
何		何		
拾		拾		
圓		圓		

合計金	青濱物商	七等	瓦指物商	六等	生樟系腦商	五等	太下物商	四等	銅陶鐵器商	三等
何千何百何拾圓何拾錢	拾貳錢五厘		貳拾五錢		五拾錢		壹圓		壹圓貳拾五錢	
	何何		何何		何何		何何		何何	
	十十		十十		十十		十十		十十	
	八八		八八		八八		八八		八八	
	何		何		何		何		何	
	拾		拾		拾		拾		拾	
	圓		圓		圓		圓		圓	

總計金何万何千何百何拾何圓何拾錢

右者明治十二年度前半納金、内同年七月一日ヨリ同月三十一日迄上納、分書面、通爲替方預証相添上納候也

年號月日

郡長何ノ誰殿

何郡何村町

戶長何ノ某印

紙 表

第八號
 雜種稅
 上納証雛形
 何郡
 何村町

任 譯 書

牛車	乘人力壹人	乘人力二人	荷積馬車	立馬車壹匹	立馬車二匹	車	三間未滿	四間船	五間船	六間船	船	員
何	何	何	何	何	何		何	何	何	何	數	
輛	輛	輛	輛	輛	輛		艘	艘	艘	艘	稅額	
貳	貳	四	貳	四	六		四	七	拾	拾	額	
拾	拾	拾	拾	拾	拾		錢	錢	錢	錢	稅	
錢	錢	錢	錢	錢	錢		何	何	何	何	稅	
何	何	何	何	何	何		何	何	何	何	金	
何	何	何	何	何	何		程	程	程	程	金	

鮮屋	蕎麥屋	饅頭屋	飲食店	旅籠屋	骨董商	書畫商	古道具商	古金商	古着商	回漕店	兩換屋
何	何	何		何	何	何	何	何	何	何	何
軒	軒	軒		軒	軒	軒	軒	軒	軒	軒	軒
		壹圓五拾錢			壹圓			壹圓貳拾五錢	壹圓五拾錢		
何	何	何		何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程		程	程	程	程	程	程	程	程

九十九

質屋	人寄席	西洋料理屋	料理屋	吹矢	射的	楊弓	大弓	玉突	諸遊技場	車荷積中小	荷積大七
何	何	何	何	何	何	何	何	何		何	何
軒	ヶ所	軒	軒	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所		輛	輛
貳圓五拾錢		三圓				五圓				拾錢	貳拾錢
何	何	何	何	何	何	何	何	何		何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程		程	程

九十八

水車	併優	相撲	遊藝稼人	遊藝師匠	理髮床	雇人受宿	湯屋	料理仕出屋	煮賣屋	雜煮汁粉屋	鳥獸肉料理屋
何ヶ所	滿拾三歲以下何人	何人	滿拾三歲以下何人	何人	何軒	何軒	何軒	何軒	何軒	何軒	何軒
壹圓	三圓	六圓	貳圓五拾錢	五圓	三拾七錢五厘		五拾錢	七拾五錢		貳拾五錢	
何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程

百

合計金何程

乘馬	漁業
自用頭	壹等
何頭	何人
貳拾五錢	三圓
何程	何程

右者明治十二年度前半納金ノ内同年七月一日ヨリ同月三十一日迄上納ノ分書面ノ通爲替方預証相添上納候也

何郡何村町

百一

年 號 月 日
 郡 長 何 ノ 誰 殿
 戶 長 何 ノ 誰 印

紙 表

第九號
地 租
割 上 納 証 離 形
戶 數

證

一金何程
 (戶數割上納証等做之)
 右者明治十二年地租割稅金前納ノ分書面ノ通爲替方預証

相 添 上 納 候 也

年 號 月 日
 郡 長 何 ノ 誰 殿
 何 郡 何 村 町
 戶 長 何 ノ 誰 印

紙 表

第拾號
稅 金 領 収 証 離 形

朱書
 用紙西ノ内六ツ切
 日計簿ノ番號ヲ記ス

第 號	何 郡 何 村 町
證	戶 長 何 ノ 某 納

紙 表

<p>郡長割印</p> <p>一金何程</p> <p>主務ノ檢印</p> <p>右正ニ領収候也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>郡長姓名印</p>	<p>何々税</p> <p>何年度前 後半額</p>	<p>第十一號</p> <p>上納証離形</p>
--	--------------------------------	--------------------------

紙 表

<p>右ノ通爲替方預リ証相添上納候也</p> <p>何郡何町</p> <p>年號月日</p> <p>戸長何ノ某印</p> <p>郡長何ノ誰殿</p>	<p>第拾四號</p> <p>地租</p> <p>割稅計算表離形</p> <p>戸數</p>	<p>明治十二年從七月計算表 至十二月</p> <table border="1"> <tr> <td>品目</td> <td>稅額</td> <td>員數</td> <td>稅金</td> </tr> <tr> <td>地租割</td> <td>五錢五厘</td> <td>金何程</td> <td>何程</td> </tr> <tr> <td>戸數割</td> <td>拾貳錢五厘</td> <td>何</td> <td>何程</td> </tr> </table>	品目	稅額	員數	稅金	地租割	五錢五厘	金何程	何程	戸數割	拾貳錢五厘	何	何程
品目	稅額	員數	稅金											
地租割	五錢五厘	金何程	何程											
戸數割	拾貳錢五厘	何	何程											

紙 表

合計金	何	程
年號月日	何郡役所	
第拾四號		
雜種稅		
鑑札雛形		

表

朱書
用紙西ノ内六ツ切

第何號	何國何郡何町何番地
何々營業免許鑑札	何ノ某

裏

朱書
此印ハ租稅掛ノ印ヲ以テ臺帳ト押切スベシ

押切	鹿兒島縣
年號月日	何郡役所
	鹿兒島縣何郡役所印

表

朱書
用紙西ノ内六ツ切

藝妓免許	番號	第何號
本籍	何縣何郡何村何番地	
姓名	何ノ某何女	
年齡	何年何月何年	

札	鑑
住所	何縣何郡何町何番地
番號	何ノ某方寄留
許可	士族 平民
月日	何年何月何日

朱書
此印ハ租稅掛ノ印ヲ以テ臺帳ト押切リスヘシ

裏

押切	鹿兒島縣
年號月日	何郡役所
鹿兒島縣	鹿兒島縣何郡
鹿兒島縣	役所印

地方稅計算表進達ニ付上申

明治十二年度前半額同年 從七月 營業稅雜種稅地租割稅戶
至十二月 數割稅計算表別紙ノ通三葉調整ニ付進達候條此段上申候也

年號月日 郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿 表畧之

○地方稅上納規則 明治十二年七月三日 乙第百五十三號達

第一條

一 凡少稅金收入期日 乙第百四拾號領收順序 依(與)行(稅) 藝妓稅ノ如キ特ニ日限ア(金員)調査上納証書ノ(稅)日限糊
ルモ定人ト封ス(致)シ上納証書(第一號)ヨリ第七號(差)立目
封(第)十號(書)ト相添上納スヘシ

第二條

一 現金壹万円以上ハ護送下シテ郡吏兩附添尙沿道警察署
へ照會巡查ヲシテ持區内傳遞護衛ナサシムルニ尤壹万

圓未滿ノ金員ハ郡吏ヲシテ護送シ或ハ内國通運會社ヲ以テ送致上納爲ス等便宜ニ任ス但通運會社ヲシテ送致上納スルハ確定ナル証書ヲ出サシムヘシ

第三條

一内國通運會社ヲ以テ送致上納スルハ届書(第拾號書式)ヲ製シ上納証書ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ其都度無滯留出ヘシ

第四條

一現金送致スルハ雨濕ノ豫防等念入荷造致スヘシ尤之レカ諸入費並運送賃及ヒ郡吏護送旅費トモ郡役所經費ノ内ヲ以テ支出スルモノトス

第五條

一現金郡吏護送ノ途中風雨等ニテ道路梗塞シ滯留スルハ其町村戸長ヨリ其事由及ヒ日數ヲ記シタル証書差出サセ歸着ノ上郡役所ヘ差出スヘキモノトス

但護送郡吏病氣ニシテ滯留スルハ本文ノ通証書差出サスルハ勿論醫師ノ診斷書モ差出サセ郡役所ヘ差出スヘキモノトス

第六條

一些少ノ金員便宜ニ依リ郵便爲替等ヲ以テ上納スルハ右爲替券へ上納証書(第一號ヨリ第七號迄ノ書式ニ倣フ)相添書留郵便ヲ以テ送致スヘシ

第七條

一 郡役所經費金等渡方許可セシ分ハ地方税ト爲替上納ス
 ルヲ得ベシ尤此場合ニ於テハ上納証書(差立目錄ヲ添
 ニシテ)ニ依テ(形)へ經費金領收証ヲ添へ書留郵便ヲ以テ送致ス
 ベシ

第八條

一 郡吏護送シ税金ハ其郡吏へ領收証相渡シ通運會社等ヲ
 以テ送致スルハ收入濟領收証若郵便ヲ以テ送致スルニ
 ノトス

第九條

一 上納証書中金員書損ヲ分改削塗抹ハ明治七年第四號公
 達ヲ通嚴禁ス

第十條

一 上納証書ハ該年度限税目ニ拘ハラヌ通シテ宛號ヲ附ス
 ルモノトス

第十條

現金納シ差立目錄ハ護衛郡吏鹿兒
 島着届出ル節証書類相添本廳租稅
 課へ遞送スヘシ

朱書 甲地方税金差立目錄

一 受拂日計簿ト郡長
 一 之ヲ割印ス以下倣之

一 金何程 何年度後期 營業稅

一 金何程 何年度後期 雜種稅

何年度後期

一金何程

地租割稅

何年度後前期

一金何程

戶數割稅

一金何程

興行稅

一金何程

藝妓稅

一金何程

屠牛稅

合金何程 朱書 ○主務檢印

右現金上納トシテ郡吏何某ニ護衛爲致今何日當地差立候也

年號月日

郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

乙爲替納地方税金差立目錄

一金何程

何年度後前期

一金何程

營業稅

一金何程

雜種稅

一金何程

全

一金何程

全

一金何程

地租割稅

全

一金何程

戶數割稅

一金何程

興行稅

一金何程

興行稅

一金何程

一金何程

藝妓稅

一金何程

屠牛稅

合金何程

右為替上納トシテ何某為替手形何通納証書何通今何日當
地差立候也

年號月日

郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

第十一號 地方稅差立屆

一金若干

納

金貨 何程

銀貨 何程

銀行紙幣 何程

銅貨 何程

但何年度地方稅

右本月何日內國通運會社ニ托シ本地差立候上納金員書面
ノ通有之候此段及御届置候也

年號月日

郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

第壹號

証

一金何程

明治何年度地租割稅

右 上納候也

鹿兒島縣

年號月日

何々郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

第二號

証

一金何程

明治何年度戸數割稅

右 上納候也

鹿兒島縣

年號月日

何々郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

第三號

証

一金何程

明治何年度營業稅

右 上納候也

鹿兒島縣

年號月日

何々郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

第四號

証

一金何程

明治何年度雜種稅

右 上納候也

鹿兒島縣

朱書
脇ニ雜種稅トハ興行稅屠牛
稅藝妓稅ヲ除クノ外ヲ云フ

年號月日
鹿兒島縣令岩村通俊殿
何々郡長何ノ某印

第五號
証
一金何程
明治何年度雜種稅ノ内興行稅
右上納候也
鹿兒島縣
年號月日
何々郡長何ノ某印
鹿兒島縣令岩村通俊殿

第六號
証
一金何程
明治何年度雜種稅ノ内何年何月分屠牛稅
右上納候也
鹿兒島縣
年號月日
何々郡長何ノ某印
鹿兒島縣令岩村通俊殿

第七號
証
一金何程

明治何年度雜種稅ノ内何年何月分藝妓稅
右 上納候也

鹿兒島縣
何々郡長何ノ某印
年號月日
鹿兒島縣令岩村通俊殿

第八號

証

朱書
〇〇郡長檢印
〇郡吏ノ印
一金何程
明治何年何月ヨリ何月迄何々費或ハ何々トシテ
御下渡ノ分

右正ニ領収候也

鹿兒島縣
何々郡長何ノ某印
年號月日
鹿兒島縣令岩村通俊殿

第九號

証

朱書
郡長檢印
朱書
郡吏ノ印
一金何程
何年何月ヨリ何月マテ何々費或ハ何
々トシテ御下渡ノ分爲換
明治何年度地租割稅

右 上納候也

百二十四

鹿兒島縣

年號月日

何々郡長何ノ某印

鹿兒島縣令岩村通俊殿

乙 第二百四十八號

郡役所 大島郡
ヲ除ク

諸稅上納手續ノ備別紙ノ通相定候條此旨相達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年十一月廿七日

鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

一新規鑑札料新規船車營業稅等ヲ郡役所へ納ムルニハ其

現金ヲ其町村戸長へ相渡ス可キモノトス

一 戸長ハ其金員ニ對スル請取証ヲ其本人へ相渡シ本人ヲ

シテ其請取証ヲ持シテ郡役所ニ至ラシムヘシ

一 郡長ハ本人ノ持參シタル戸長請取証ヲ認テ鑑札付與又

ハ檢印等ノ處分ヲ爲シ其受取証ハ郡役所ニ留置キ本人

ハハ更ニ郡役所ノ領收証ヲ製シ戸長請取証ト割印シテ

與フヘシ

一 戸長ノ請取タル現金ハ其月内一回若クハ二回又ハ地稅

上納ノ便宜ヲ以其收稅區内爲換方へ相預ケ預ケ証書ハ

十號ニ達第二號 右預リ証へ上納証相添郡長へ上納セシム

一 郡長ハ戸長ヨリ納來ル處ノ爲換方預リ証ヲ認テ右金員

ニ對スル戸長受取証(製ニ留置)ヲ返付スヘシ而シテ後成

百二十五

規定通郡長ヨリ收税委員へ上納シ以テ納税ノ順序完結

○河港道路橋梁其他修築假規則 明治十二年十二月十九日乙第二百六十二號達

第一條

河港道路橋梁堰埭溜池樋管ノ類官費及官民兩費ヲ以テ修繕ノ箇所破壊或ハ腐朽等ニテ保存シカタク翌年春期修理スヘキ分ハ第一號書式ノ如ク箇所限明細取調年々九月卅日ヲ限願出ヘシ
但非常ノ天災罹リ捨置カタキ分ハ其時々願出ヘシ
第二條 通常ノ修繕第一條ノ期限ニ後レ出願シタル分ハ翌年春修繕ニ加ヘサルモトス

但第一條ノ期限ニ後ルモ止ムヲ得サル事情アルモ

其事實ヲ詳明取調修繕申付ル

第三條

修繕箇所ハ官員出張實地審査ヲ遂ケ目論見帳下付スヘシ
右帳簿ニ記載ノ外修繕増加スルヲ許サス

第四條

目論見帳ノ外適宜修繕ヲ増加シ或ハ職工人夫賃諸色代等増加シタルモ悉皆協議費タルヘシ

第五條

修繕竣功ノ期限ハ工事ノ大小ヲ量リ目論見帳下附ノ節期限ヲ達スヘシ依テ該村へ到達ノ日ヨリ三日限第二號書式ノ請書差出スヘシ

第六條

修繕許可ノ后チ實際止ムヲ得サル事故アリテ期限内竣功
スル能ハサルモノハ成功ノ日限見込相立情實具陳期限内
ニ申出ツヘシ若シ等閑ニ經過シ出來形調査ノ節未成ノ箇
所ハ取消或ハ年延申付ル事アルヘシ

第七條

工事成功ニ至レハ第三號書式ノ如ク出來形精算帳正副二
冊製シ差出スヘシ

第八條

工事成功ニ至リ精算帳進達シタル後天災ニ罹リ流失或ハ
破壊セシモノハ災害ノ景況及ヒ該年月日詳細記載直ニ届
出ヘシ若シ等閑ニ經過シ出來形調査ノ節ニ至リ其旨申立

八

ルトモ修築セサルモノト見做シ取消又ハ年延申付ルコト
ル也

第九條

出來形調査ノ節目論見帳ニ違背シタル修築ハ改築申付夫
ガ爲メ増費ヲ要スルモ官費支給セサルモノトス

第十條

官費金ハ出來形檢査済ノ上下渡スモノトス若シ事故アリ
テ該村戸長出頭スルヲ得サル時ハ代理人エ成規ノ委任狀
ヲ渡シ請取方申出ヘシ
但百圓以上ノ官費ヲ要スル場所ハ實際出來形ノ分通ヲ
以テ下渡スコトモアルヘシ

第一號 (用紙通常野紙)

何國堂何郡

村

(幹)單(支)派流何川通

字何々

高何程

一堤切所長何間

伊馬踏何程

字何々

敷何程

但年號何年修築カ修繕カ或ハ不詳カ

全

出堤欠所長何間

但高何程
横何程

但前ニ全シ

海岸

字何々

一汝除石堤切所長何間

但前ニ全シ

何所往還

字何ヨリ何迄

一道路長何拾間

但巾何間

但年號何年修繕或ハ不詳

何所往還

字何々

一(石)板(土)橋

但長何間
巾何間

但年號何年新架全何年修繕又ハ不詳

字何々

一(溜池)井堰(用水路)樋(管)水門壹ヶ所

一 舊但年號何年新築何年修繕
二 何時以下何ヶ所アルトモ右ニ倣フ
右ハ從來官費御普請所ニ御坐候處何月何日(風雨)出水ノタ
ニ(流失)破壞ニ及ヒ候間御修補奉願候也

右村惣代

何年何月何日

何ノ誰印

何ノ誰印

何ノ誰印

何ノ誰印

何ノ誰印

御請書

一 當村(何川)通堤防或ハ川除(字)洩除堤(字)何土石板橋(字)何井

堰(字)何溜池地(字)何樋管(字)何道路官費金何程ヲ目途修繕目
論見帳御下渡相成然ル上ハ御達ノ通來ル何月幾日限堅固
ニ相仕立可申候若シ期限ヲ失シ又ハ目論見仕法ニ背キ疎
漏ノ廉有之節ハ手直或ハ御取消減費等ニ相成候トモ聊異
議無之候依之御請書差上置候也

何郡何村

惣代

年月日

何ノ誰印

戸長

何ノ誰印

縣令宛

第三號 (用紙白紙袋綴)

表	年號月日	何國何郡何村何々修繕出來形精算帳
紙		

帳簿ハ目論見帳ノ通記載スヘシ若諸色
目論見ノ金高ヨリ廉價ナレハ其現實支
拂タル金額ヲ記載スヘシ

右修繕何月何日迄ニ成功仕出來形精算書面ニ通相違無御
坐候也

何國何郡何村
惣代

年號月日 誰印

戸長

誰印

縣令宛

(餘白一枚ヲ存スヘシ)

○戸籍調査規程

明治十一年五月
庶第五號諭達

第一條

戸籍ハ重複遺漏ナキヲ要スル爲メ實地ノ戸口ニ就キ本籍
ヲ調査スルヲ主旨トス故ニ假令他へ寄留旅行又ハ別居等
ニテ當時不在ノ者タリトモ本籍相違ナキニ於テハ凡テ式
ノ如ク該籍ニ記入スヘシ
但失踪逃亡人トイヘトモ八十年未滿ノ者ハ除籍スベカ

第二條

戸籍調査ノ廉々ハ戸籍離形ニ記載スト雖モ仍ホ其部目ヲ左ニ詳記ス

第一項 住所ノ區別

自己所有ノ家屋ニ居住スル者ハ何番戸居住ト記載シ他ノ一家屋ヲ借り受テ居住スル者ハ借家居住他ノ家族ト同居同炊スル者ハ何番戸内同居ト記載スル類

第二項 屬族

士族カ平民カ該戸主ノ身分ヲ記載スベシ

第三項 職業

農カ何工カ何商カ又ハ雜業カ或ハ官吏カ都テ該戸主

ノ職業ヲ詳記スヘシ
第四項 氏神 宗旨
氏神ハ其神社名宗旨ハ何宗又ハ神葬祭ト記載スベシ但家族中氏神又ハ宗旨ヲ異ニスルモノアリト雖モ戸籍上ニハ該戸主ノ氏神又ハ宗旨ヲ記載スル事トス

第五項 姓名

戸主又ハ附籍主ハ必ス苗字名ヲ記シ家族ハ止メ名ノミヲ記載スヘシ
但戸主家族トモ婦女子ハ其名ヲ朱書スヘシ尤女戸主ハ苗字ヲ墨書シ名ノミヲ朱書スル事トス

第六項 年齢

年齢ハ戸主家族トモ都テ離形ノ如ク生年月ヲ記載ス

第七項 戸主肩書

戸主ノ右肩書ニハ書式ノ如ク必ス該人實父ノ屬族ト姓名トヲ記載スヘシ左肩書ニハ前戸主隱居又ハ死後カ都テ該家ノ相續ヲ受タル形狀ヲ記載スヘシ但已ニ死去セシ者ハ亡ノ字ヲ加フヘシ以下之ニ倣ヒ

第八項 家族續柄

家族ハ書式ノ如ク戸主ニ對スル等親ト且實父ノ屬族姓名ヲ記載スヘシ

第九項 寄留

全戸他ヘ寄留ノ者ハ書式ノ如ク戸主姓名ノ上ヘニ寄留先ヲ詳ニ朱書シ家族中獨身ニテ他ヘ寄留ノ者ハ該

人名ノ上ヘニ同様朱書スヘシ

第十項 附籍人

附籍人ハ書式ノ如ク末野ヘ該人ノ屬族姓名ト及附籍タル事故ヲ詳記スヘシ

第三條

從來ノ番地號ヲ廢シ現在ノ家屋ニ就キ區内人民ノ所有ト否トヲ論セス都テ戸毎ニ番號ヲ定ムヘシ

但番數ハ一町村限リ之ヲ定メ屋並ノ順次ニ從ヒ某町村

何番戸ト附スヘシ

第四條

戸籍ハ家屋番號ノ順次ヲ以テ之ヲ編綴シ一町村ヲ限リ一冊トス尤該町村戸數ノ多寡ニヨリ一町村ヲ幾冊ニ分テ數

町村ヲ合冊ニスルモ便宜ニ任ス

但寄留人又ハ別居人居住ノ家屋ハ家屋ノ番號ト（該住人）長上改正

ノ姓名ト迄ヲ登記シ逐次編綴シ置クヘシ尤家族人名等

ハ別ニ寄留人戸籍ニ式ノ如ク登記スルコトス

第五條

他ヨリ全戸寄留ノ者ハ區内本籍人同様之ヲ戸籍ニ登記ス

ヘシ尤戸籍面戸主姓名ノ上ニ本籍ヲ朱書シテ詳記スルヲ

例トス

但戸籍ヲ編綴スルニ至テハ本籍人ト別異シ區内寄留人

戸籍ト標題ヲ附シ仍ホ他管下人ト管内他區内人トモ

區分シ別冊ニ編綴スヘシ尤全戸寄留ニアラサル分ハ該

人ヨリノ居書ヲ逐次編綴シ寄留名簿ト標題ヲ附シ置ク

第六條

隱居又ハ二三男弟等同區内ニ於テ戸主ト居ヲ異ニシ他ノ

家屋居住スル者ノ之又別居トス尤本籍（區外）ニ在ルキハ

之ヲ寄留トス

但戸籍ハ書式ノ如ク該人ノ本籍面ニ別居又ハ寄留所等

ヲ朱書シ置クヘシ

第七條

戸籍調査終ラハ速ニ毎戸ヘ番號標ト名標トヲ掲クヘシ

但標札ハ樅又ハ杉等ヲ以テ之ヲ造リ寸法書式等雛形ノ

通タルヘシ

第八條

百四十一

戸籍ハ貳通ヲ製シ壹通ハ縣廳(宮崎並大島外四島支廳下ハ該支廳)ヘ差出シ壹通ハ戶長事務扱所ニ備置キ爾後ノ加除ヲナズヘシ

第何大區何小區某村何番戶	借居 同居 居住	屬族 朱	職業 某府縣下某所當縣某區某所寄留	氏神 某縣士族	宗音 當縣士族	當縣士族何ノ誰何女	母 朱名 某年月日生	妻 朱名	長男 朱名	長男妻 朱名	孫 名
--------------	----------------	---------	----------------------	------------	------------	-----------	------------------	---------	----------	-----------	--------

當村平民亡何ノ誰二女	伯父妻 朱名	伯父 名	弟 名	姉 朱名	長女 朱名	庶子 二男 名
------------	-----------	---------	--------	---------	----------	---------------

附籍ノ事故				
附籍				
族屬 苗字名				

番號標並名標離形
六寸五分

鹿兒島縣第何大區何小區
某國某郡
某町村何番戶
某鄉島

五寸

借家居住	屬族	苗字名
同居	屬族	苗字名
別居	住所屬族何誰父カ二男カ	苗字名

百四十四

百四十五

持家寄留 某府縣士族カ平民カ(何ノ誰何男カ)
苗字名

戸籍加除規程

第一條

生死婚姻養子相續轉居轉籍等ハ都テ人民ノ届書ヲ証トシ
遺漏ナク戸籍ヲ加除スヘシ
但加除ハ都テ朱ヲ以テ登記スルヲ例トス

第二條

家族ノ異動ハ加除書式ニ示ス如ク該人記名ノ野内ヘ其由
ヲ登記シ且加除ノ印ヲ捺シ置クベシ

第三條

該区内ニテ居住ヲ轉スルモノハ加除書式中甲印ノ如ク其
由ヲ登記シ置クベシ

第四條

他管下又ハ管下他区内ヘ轉籍スル者ハ乙印ノ如ク其由ヲ
登記シ且朱ニテ横線ヲ畫シ置クベシ

第五條

他管下又ハ管内他区ヨリ入籍スル者アルキハ該人ヨリ家
族人員書等親等ヲ逐一ヲ出サシメ前管區戸長ヨリノ送籍
狀ニ照合審査シ更ニ式ノ如ク戸籍ヲ淨書シ逐次別簿ニ綴
リ置キ爾後ハ加除ヲナスヘシ

第六條

期日及會場等ヲ定メ且所轄内ノ被撰人姓名住所年齢等
ヲ詳記シ少クモ十五日前所轄内ニ公告スヘシ

但豫定ノ期日ニ出頭セサルカ又ハ投票ヲ出サ、ル者
ハ當日撰舉ノ事ニ付異議アル可カラサル旨公告文中
ニ記載スヘシ

第六條 投票ヲ出シ畢レハ書記衆中ニ於テ之ヲ開キ其撰
舉狀ヲ朗讀ス而シテ規則第十八條ノ通撰舉人名簿被撰
人名簿ニ就キ其投票ノ當否ト當撰人ノ當否ヲ査定スヘ
シ

第七條 撰舉會畢レハ郡長ハ當撰人ニ當撰狀ヲ渡シ請書
ヲ出サシメ而シテ其住所姓名等ヲ所轄内ニ公告シ直ニ
縣廳へ届出ヘシ

第八條 當撰狀文例左ノ如シ
用紙奉書四ツ切

何 某

某郡縣會議員當撰候事

鹿兒島縣某郡々長何某

明治何何年月何日

郡役所印

第九條 當撰人請書文例左ノ如シ

用紙美濃紙

御 請

今般某郡縣會議員當撰相成候旨御達之趣致承知則及御
請候也

某郡某町士族(平民)

何 某實印

鹿兒島縣某郡々長何某殿

○地所變換取扱手續

明治十四年二月廿四日
乙第三十號達

第一章 總則

第一條 地所變換處分ノ儀ハ追々ノ公布及達等ニ遵由取扱フヘキモノト雖モ猶取扱ノ順序左ニ示ス

第二條 第二章以下各筆限帳ハ必ス地券臺帳ヘ一筆毎綿密照合シ差違無之檢篤ク注意スヘシ

但地券臺帳下ケ渡候迄ハ村方筆次帳ヘ篤ト照合爲致候様注意スヘシ

第二章 荒地取扱之事

第三條 民有地天災ニ罹リ大ニ損壞ヲ來シタル時ハ其時々損害ノ景狀及反別ノ概數ヲ報告スヘシ

第四條 荒地ト稱スルモノハ山崩川欠押堀石砂入河原成池成川成海成湖水成等ノ天災ニ罹リタル土地ヲ云フ

第五條 荒地一筆限帳ハ字番號及每筆地目反別地價地租地主姓名並損壞ノ名稱ヲ騰記シ且損壞ノ厚薄ニ應シ起墾ノ難易失費ノ多寡ヲ考量シ十年以内ノ年季見込ヲ立テ每筆ヘ記入シタル帳簿正副差出サシムヘシ

第六條 荒地繪圖ハ地租改正ノ際調製セシ地圖ヲ基本トシ其荒地ニ係ルモノ及接續ノ地形迄ヲ詳細ニ畫キ荒地ト生地トノ色分ヲ畫キ地方ハ一筆毎ニ地形區畫ケヲセシ地圖ヲ差出サシムヘシ

第七條 一筆限帳差出セシ上ハ其損害ノ反別地價ヲ地目毎田畑宅地其他ノニ區分シ一郡限ノ概計ヲ作り是レヲ報告スヘシ而シテ實地檢査着手スヘキモノトス

第八條 荒地ノ場所ヘハ畝杭ヲ建サセ境界ヲ明瞭ニシテ其廣狹ヲ丈量シ反別ヲ限リ損害ノ輕重ヲ區別シ該地接續ノ生地圖面ヲモ照合シ免稅ノ年期ヲ檢査スヘキモノトス

第九條 免稅年期ヲ查スルハ損害ノ輕重ト起返ノ難易ニ據リ原形ニ可復迄ノ失費荒地壹反歩或ハ百坪ニ付人夫用ヲ積算セシ調書ヲ一郡毎ニ二三ヶ所ヨリ差出サセ其當否ヲ檢シ右ノ平均シ各村費額ノ目途トナシ其多寡ニ基キ該地收穫何ヶ年分ヲ以テ失費ヲ償却シ得ヘキト否

サルトヲ考量シ損害ノ年ヨリ十年以内ノ段階ヲ立八十九六五四三テ實際不公平無之檢年季區分相立ヘキモノトス

第十條 實地檢査ノ上相當ノ年季見込相立上ハ其年期中精々盡力起墾ニ從事シ尙モ等閑ニ流ルリ弊ナキ檢地主一同及村吏連署ノ請書ヲ出サシテ郡役所ニ備ヘ置クモノトス

第十一條 檢査完了ノ上甲號離形ニ倣ヒ調整シ一筆限帳相添免稅ノ儀十二月五日限伺出ヘシ

第三章 荒地年季明取扱ノ事

第十二條 郡役所ニ於テハ甲號離形ニ準シ原簿ヲ製シ起返及ヒ繼年等脱漏無之檢調査スヘキモノトス

第十三條 荒地免稅年季中宅地トナスモノハ宅地トナリ

但池成沼成等ヲ埋堆シ宅地トナスカ如キ非常ノ勞費

アルモノハ年季中免租ヲ積取調伺出スヘシ

第十四條 荒地年期明起返シ調査ハ明治十年公布第八號

第八條ニ據リ一筆限帳及繪圖ヲ出サシメ畝杭ヲ建サセ

一筆限リ耕地ノ分ハ畔畦ヲ除キ更ニ實地ヲ丈量シ起返

反別ヲ定メ而シ收穫地價ヲ調査スヘキモノトス

第十五條 實地丈量ノ際該地及接續スル從來ノ生地迄ヲ

圖面並荒地帳等ニ照シ綿密検査ヲ經猶荒地ニテ殘ルモ

ノアレハ之ヲ別途一筆限帳ヲ出サシメ其起返ノ難易ヲ

量リ十年以内ノ年季ヲ附與スルモノト雖起返反別

止ルモノハ元反別ニ據置クモノトス

第十六條 地價調査ノ儀ハ該地四圍ノ收穫地價ヲ書出サ

シ之レカ比準ヲ取リ尙耕耘ノ難易地味ノ善惡ヲ考量シ

實地相當ノ價額ヲ調査附稅スヘキモノトス

第十七條 荒地年期明ニ至リ原形ニ復セサルモノハ繼年

期一筆限(第二章第五)帳出サシメ實地検査ノ上十年以内

ニ繼年季ヲ附與スヘキモノトス

第十八條 池成ノ荒地年期明ケニ至リテ原形ニ復セスト

雖水草魚鳥等ノ收利アルモノ及年期中竹木萱等ノ類

自自然ニ生立多少利益アルモノハ十年公布第八號第六七

兩條ニ遵由實地検査ノ上相當地價取調附稅スヘキモノ

トス

第十九條 荒地繼年季明ニ至リ原形ニ復セズ猶依然タルモノハ附與スル處ノ券狀ヲ還納セシメ荒地ノ名稱ヲ除去シ全ク川海湖池(即チ官有)ニ歸スヘキモノトス

第二十條 前條々調査終ラハ乙丙丁號雜形ニ倣ヒ調整シ一筆限リ帳相添共年二月廿五日限リ伺出スヘシ但變換無之トモ其段届ケ出ベキモノトス

第四章 開墾地取扱ノ事

第二十一條 民有ノ山林原野藪等ノ地ヲ開墾セントスルモノハ其一筆限(租字番號地名反別地價地帳及繪圖面ヲ出サシムヘキモノトス)

第二十二條 前條帳簿圖面差出セシ上ハ實地ニ就キ將來

十

ノ妨害障碍等ノ有無ヲ篤ト取調差支無之モノト認ルニ於テ其年期見込相立其時々伺出スベシ

第二十三條 開墾歛下年季ノ儀ハ其地開拓ノ難易失費ヲ多寡等ヲ考量シ其年ヨリ十年以内ノ歛下年季ヲ附シ年季中ハ素地ノ稅額ヲ收入スヘキモノトス

第二十四條 自今官有地拂下ケ開墾モ第二十二條第二十條ニ據リ歛下年季ヲ附與シ年季中ハ素地相當ノ地價ヲ定メ附稅スヘキモノトス

第二十五條 地價調査ハ該地四圍ノ地價ヲ書出サセ彼是ノ比準ヲ量リ素地相當ノ地價調査スヘキモノトス但シ伺ノ節ハ四圍ノ地價筆毎ニ附箋致可差出事

第五章 開墾歛下年季明取扱ノ事

第二十六條 郡役所ニ於テハ別紙戊己號離形ニ準シ原簿ヲ製シ季明新反別入等遺漏無之様調理スヘキモノトス

第二十七條 改租後開墾歟下年季ヲ附與セシモノハ期明起墾ニ至ルト雖モ明治十年地租改正事務局乙第十四號達及十三年公布第二十五號第二條ニ據リ地價据置年度(改租ノ年ヨリ滿中ハ素地ノ稱ニ据置爾後(改租初年ヨリ五ヶ年間ヲ云フ)六ヶ年間目ヨリ)其年々期明變換ノ手續ヲナシ現地目ニ組換地價ヲモ修正スヘキモノトス

第二十八條 期明起墾ニ(改租ノ際調査ノ開墾及)至ラハ地味シ善惡耕耘シ難易ヲ篤ク考量シ接續四至ヲ收穫地價ヲ書出サズ彼是ヲ比準ヲ取リ該地相當ノ收穫地價ヲ定メ附税スヘキモノトス

第二十九條 歟下年期明ニ至リ未タ起墾ニ至ラザルモノハ事由詳細取調其不止得事故ト認ル上ハ又拾年以内ノ相當繼年季ヲ附與ズヘキモノトス

第三十條 改租ノ際歟下年季ヲ附與セシ分前條ノ場合ニ至テハ素地相當ノ地價ヲ(第四章第二十五)附シ其年ヨリ附税スヘキモノトス

第三十一條 民有山野ノ嶮岨巖石等ヲ鑿平シ或ハ池沼ノ類ヲ埋堆シ其素地ノ全體ヲ變換シテ宅地トナスカ如キハ明治十年(地租改正)連署乙第六號達第一條以下三條迄ニ據リ取調伺出ヘシモノトス

第三十二條 第二十七條以下各一筆限帳及繪圖面ヲ出サズシテ實地ニ就キ調査スヘキモノトス

但何ノ節六四圍ノ地價ヲ每筆ヘ付箋致可差出事

第三十三條 右調査了テ別紙戊己號離形ニ倣ヒ整調シ一筆限帳相添十二月五日限伺出スヘシ

但變換無之ニ其旨届出ヘシ

第六章 田畑成及組替地取扱ノ事

第三十四條 地租改正後田畑成畑田成宅地成等ノ類ハ其都度爲届出實地點檢ノ上三ヶ月毎ニ取纏メ翌月五日限別紙庚號離形ニ倣ヒ調整シ届出ヘシ

第三十五條 溜池或道成等ノ潰シ地一筆限〔名字番號地主姓載〕帳及繪圖面ヲ出サシメ實地檢査濟ノ上免租ノ儀其時々伺出ヘシ

第三十六條 官有地拂下ケ民有地ヘ變換新ニ地價ヲ附ス

ルモノハ一筆限帳ヲ出サシメ實地檢査ノ上相當ノ地價

取調附稅ノ儀其時々伺出ヘシ

第七章 地稅表ノ事

第三十七條 地稅表ノ儀ハ別紙辛號離形ニ倣ヒ地稅増減

對照表相添ヘ一月十五日限可差出事

甲號	甲號ヨリ庚號迄	何郡役所
用紙美濃紙	明治何年	
何國何郡村々荒地帳		

明治何年改

一荒地反別何程

此地價金何程

何國何郡

何村

此地租金何程

此

朱
〔外〕金何程掛出〔不足〕

百六十六

田反別何程

山崩川欠其他損害之名稱ヲ
詳記スベシ

此地價金何程

此地租金何程

朱
全

反別何程

何年迄ヨリ何年季

此地價金何程

拾年或ハ九年其年數ノ多
キモノヨリ順次操下ケ騰
記スベシ

此地租金何程

朱
全

反別何程

何年迄ヨリ何年季

此地價金何程

朱

此地租金何程

全

畑反別何程

損害ノ名稱ヲ騰記スヘシ以下同シ

此地價金何程

内譯其他渾テ田
方ニ倣フベシ

宅

此地反別何程

内譯以下渾テ田
方ニ倣フベシ

右ノ外塩田鹽濱製鹽場各種ノ名
有之ハ其名目限リ田方ニ倣ヒ記目
載スベシ

明治何年改

何國何郡寄

百六十七

二 荒地反別何程

何ヶ村

此地價金何程

此地租金何程

此譯

田反別何程

此地價金何程

此地租金何程

内

反別何程

此地價金何程

此地租金何程

以下一限リノ書式ニ
做ヒ記載スヘシ

何年ヨリ何年季

損害ノ名稱ヲ記スヘシ

内外金何程掛出〔過不足〕
以下渾テ之ニ
做フヘシ

管轄二郡以上ニ涉ルモノハ管
轄寄ヲモ附シ調理スヘシ

右者明治何年當管轄何國何郡村々荒地年季調査致候處書
面之通有之候條右年季中免租相成度依テ一筆限リ帳相添
此段相伺候也

年月日

縣令宛

郡長姓名印

表

乙號

明治何年

何國何郡村々荒地繼年季調帳

何郡役所

紙

何國何郡

何村

明治何年繼年季改

一荒地反別何程

此地價金何程

此地租金何程

此譯

田反別何程

此地價金何程

此地租金何程

內

反別何程

此地價金何程

山崩川欠其他損害之
名稱ヲ詳記スヘシ

朱全

何年ヨリ何年迄何年季ノ〔内分〕

拾年或ハ九年其年
數ノ多キモノヨリ
順次隱記スヘシ

何年ヨリ
何年迄何年季

朱全

此地租金何程

年季限リ右ニ
倣ヒ記スヘシ

畑反別何程

此地價金何程

此地租金何程

内譯其他渾テ田
方ニ倣フヘシ

宅地反別何程

此地價金何程

此地租金何程

内譯其他各種ノ名目有之モノ
ハ渾テ田方ニ倣ヒ記載スヘシ

外

何年ヨリ何年迄何年季ノ〔内分〕

一反別何程

荒地除
官有地成

此地價金何程

持主券狀ヲ還納シ荒地ノ名稱ヲ除
去スルモノヲ登記スベシ

此地租金何程

何國何郡寄

明治何年繼年季改

何ヶ村

此地價金何程

朱
(外)金何程掛出(過不足)

此地租金何程

此譯

損害ノ名稱ヲ記スベシ

田反別何程

此地價金何程

朱
全

此地租金何程

反別何程

何年ヨリ
何年迄
何年季

此地價金何程

朱
全

此地租金何程

以下一村限りノ書式ニ倣ヒ
記載スベシ

管轄二郡以上ニ涉ルモノハ管轄寄
ヲ附シ調理スベシ

右者明治何年當管轄何國何郡村々荒地期明ニ付實地檢査
候處未原形ニ復セス繼年季取調候處書面之通有之候條右
年季中免稅相成度一筆限帳相添此段相伺候也
年號月日
郡長姓名印

縣令宛

丙號

表 紙

明治何年	明治何年
何國何郡村々荒地起返帳	
	何郡役所

明治何年改

何國何郡

何村

一反別何程

此地價金何程

此地租金何程

此譯

田反別何程

此地價金何程

此地租金何程

朱 (外)金何程掛出(不過)

山崩川欠等其他損害ノ名稱

朱 全

内

一反別何程

明治何年ヨリ何年迄何年季ノ(内)

此地價金何程

此地租金何程

全

此地價金何程

此地租金何程

全

知反別何程

此地價金何程

此地租金何程

朱 全

朱 全

内譯田方ニ
傲フヘシ

宅地反別何程

此地價金何程

此地租金何程

渾テ田方ニ
倣フヘシ

右ノ外墾田其他各種ノ名目有之
ハ其名目限リ右ニ倣ヒ記載スヘシ

明治何年改

何國何郡寄

一 反別何程

何ヶ村

此地價金何程

此地租金何程

此譯

朱
内(外)金何程掛出(過不足)

田反別何稅

損害ノ名稱ヲ記スヘシ

此地價金何程

此地租金何程

内

反別何程 明治何年ヨリ何年迄何年季ノ〔内〕

此地價金何程

此地租金何程

年季限記
載スヘシ

朱
全 明治何年起返

右ノ外畑宅地切換畑墾田等各種ノ名目有之
分ハ其名目限リ田方ニ倣ヒ記載スヘシ

管下二郡以上ニ涉ルモノハ管
轄寄ヲモ附シ調理スヘシ

右者當管轄何國何郡村々明治何年荒地起返反別地價實地
檢査候處書面之通候條本年ヨリ成規之通本反別入附稅相

右者何國何郡村々荒地之内變換取調候處前記之通有之候
條本年度ヨリ地目組換附稅相成度此段相伺候也

年月日

縣令宛

郡長姓名印

表

戊號

明治何年

何國何郡開墾地畝下年季調帳

紙

何郡役所

明治何年改

何國何郡

一開墾地畝下反別何程

何村

此地價金何程

此地租金何程

內譯

反別何程

何年迄
何年迄
何年迄

此地價金何程

此地租金何程

反別何程

何年迄
何年迄
何年迄

此地價金何程

此地租金何程

同年度毎ニ併記シ年季ノ
異ナルモノヲ類別スヘシ

二郡以上ニ渉ル管轄ハ郡寄及
管轄寄居右ニ倣ヒ調理スヘシ

右者何國何郡村々開墾地下一年季調書面之通候也

年月日

郡長姓名印

縣令宛

己號	明治何年
何國何郡	開墾地下一年季調帳
何郡役所	

明治何年繼年季改

何國何郡

一開墾地下一反別何

何村

此地價金何程

一又此此地租金何程

內譯

反別何程	此地價金何程	何年ヨリ何年迄何年季ノ〔内〕
此地租金何程	同上	何年ヨリ何年迄
此地價金何程	同上	何年迄
此地租金何程	同上	何年迄

同年度毎ニ併記シ年季ノ異ナルモノヲ類別スヘシ

二郡以上ニ渉ル管轄ハ郡寄及管轄寄ニ右ニ倣ヒ調理スヘシ

右者何國何郡村々開墾畝下繼年季取調一筆限帳相添此段相伺候也

年月日

縣令宛

郡長姓名印

表

庚號
明治何年
何年何月ヨリ三ヶ月分
何國何郡村々(畑田)成變換屆
何郡役所

紙

一反別何程

何國何郡
何村

幸此此地價金何程

此地租金何程

此譯

此此地價金何程

明治何年
(畑田)成

此此地價金何程

此地租金何程

此此地價金何程

此地租金何程

(畑田)成

此此地價金何程

此此地租金何程

此此地價金何程

此地租金何程

全 畑田宅地成

宅地反別何程

此地價金何程

此地租金何程

二郡以上ニ涉ル管轄ハ郡寄及管轄寄トモ右ニ倣ヒ調理スヘシ

右者何國何郡村々 畑田宅地 成變換 何月迄ヨリ 取調此段及御届候

也

年月日

縣令宛

郡長姓名印

辛號附錄

地稅表調理順序

一 地稅表ノ地目ハ左ニ割注セル種類ヲ編入シ其他異稱ノ

モノハ類似ノ地目ニ編入スベシ

畑田 不類畑田 畑田 不類畑田

一毛畑 畑田 一毛畑 畑田 一毛畑 畑田 一毛畑 畑田

市街宅地

鹽田 製鹽場

溫泉

冷泉

山林原野

崖地 岨地 葦山

牧場 砂地 山

葦生地 芝生地 柴生地

柴草生地 柴草生地 柴草生地

池沼 養魚池
 雜地 物干場
 流木置場
 網干場
 土取場
 布取場
 石取場
 井戸敷
 砂取場
 一地稅増減對照表
 六反別地價地租前年ニ對シテ増減アルモ
 シノハニ括シ繼形ニ倣ヒ之レヲ製シ辛稅表一同差出スヘ

辛號	用紙西之内
明治何年	何國何郡明治何年地稅表
何國何郡	何郡役所

何國何郡

地目	反別	内引反別	殘反別	地價	地租
田					
畑					
郡村宅地					
市街宅地					
計					
冷溫泉					
鹽田					
山林原野					
池沼					

雜地	計	合計	年賦納	總計

百九十二

右者當郡役所管轄明治何年各地目限反別稅額書面之通候也

明治何年何月何日

縣令宛

郡長姓名印

明治何年何國何郡地稅增減對照表

用紙美濃紙
此表ハ一郡限ニ不及全管轄總計ノミヲ調製ス可シ
一表中增減比較ハ前年ノ生地ヲ加除シ當年ノ生地ニ對照スルヲ要ス
一誤謬訂正ニ係ル増減ノ廉々ハ前々へ遡リ訂正ヲ要スル年度違ノモト混淆
セズ唯當年分ノミヲ掲載スベシ

計	何々	何々	誤謬訂正	荒地起返	新反別入	種類	增	別	種類	反	減	別	比較增減
							反	別					

百九十二

